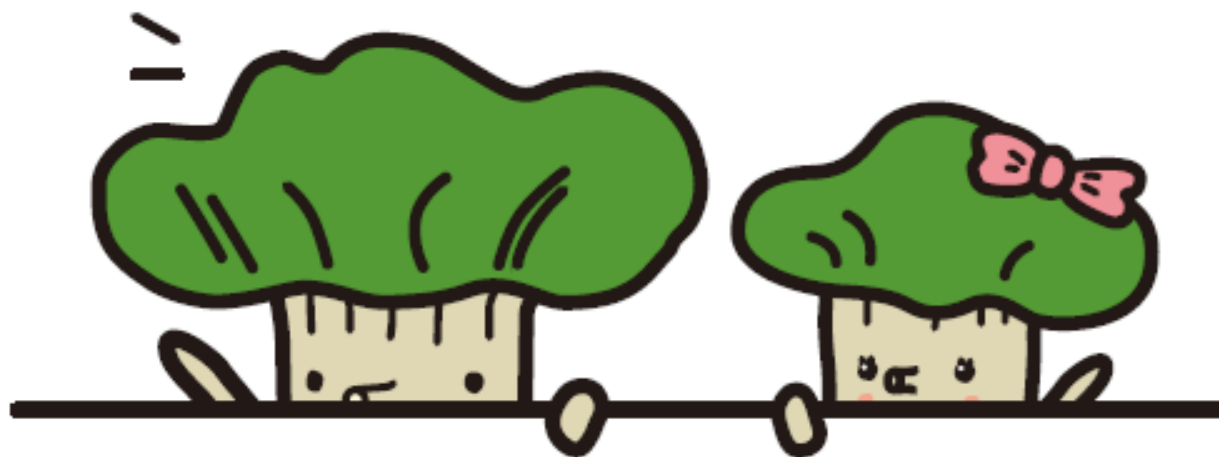


2020年度 第2四半期決算

# 決算概況と今後の事業展開について



つなぐを化学する  
荒川化学工業株式会社

# 新型コロナウイルス感染症に対する状況

| 項目                | 状況                                                                                                                  |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 感染者の有無            | 無し（2020年12月1日時点）                                                                                                    |
| 国内の生産拠点           | 正常に稼働                                                                                                               |
| 海外関係会社            | 正常に稼働                                                                                                               |
| 業績への影響<br>感染拡大防止策 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 製紙業界、印刷業界、塗料業界、自動車業界の需要が大きく悪化</li><li>・ 各種防止策実施中<br/>（P 12にて詳細記載）</li></ul> |

- 感染者が発生し社内での感染が拡大した場合のリスク
  - ・ 事業所の閉鎖などによる事業活動の縮小や停止
  - ・ 業績予想は変動の可能性あり

# 目次

**1 第4次中期5カ年経営計画の進捗状況**

**2 決算概況と今期予想**

**3 セグメント別情報**

**4 事業と製品**

**5 持続可能な成長を目指して**

**参考資料**

**1**

## **第4次中期5カ年経営計画の進捗状況**

# 第4次中期5カ年経営計画の概要

## *Dramatic* **SHIFT 1**

永続的な成長のため、劇的な経営資源の再配置や最適化により、事業の変革を実現し、全社“**1**”丸となって真のグローバル化を目指す  
(2016年度～2020年度)

### 外部環境

**不安定で変化が激しく、先が見通せない**

- 国内市場の縮小
- 原材料価格の変動
- 急激な為替変動
- 通商問題の激化
- 感染症リスク など

# 重点施策と経営目標

① **SHIFT** 実現体制の構築

② 事業の新陳代謝の実践

③ 真のグローバル化とガバナンス体制強化

(百万円)

|                     | 2015年度<br>(前中計終了時) | 2019年度 | 2020年度<br>(予想) | 2020年度<br>(最終目標) | 5カ年<br>伸率 (%) |
|---------------------|--------------------|--------|----------------|------------------|---------------|
| 売上高                 | 79,119             | 72,967 | 67,500         | 100,000          | +26.4         |
| 営業利益                | 3,639              | 2,574  | 2,700          | 5,800            | +59.4         |
| 経常利益                | 3,851              | 2,927  | 3,000          | 6,000            | +55.8         |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 2,311              | 1,732  | 1,800          | 3,700            | +60.1         |
| ROE                 | 5.0%               | 3.2%   | 3.4%           | ≥6.5%            |               |

## 計数目標未達の主な要因

富士工場爆発・火災事故

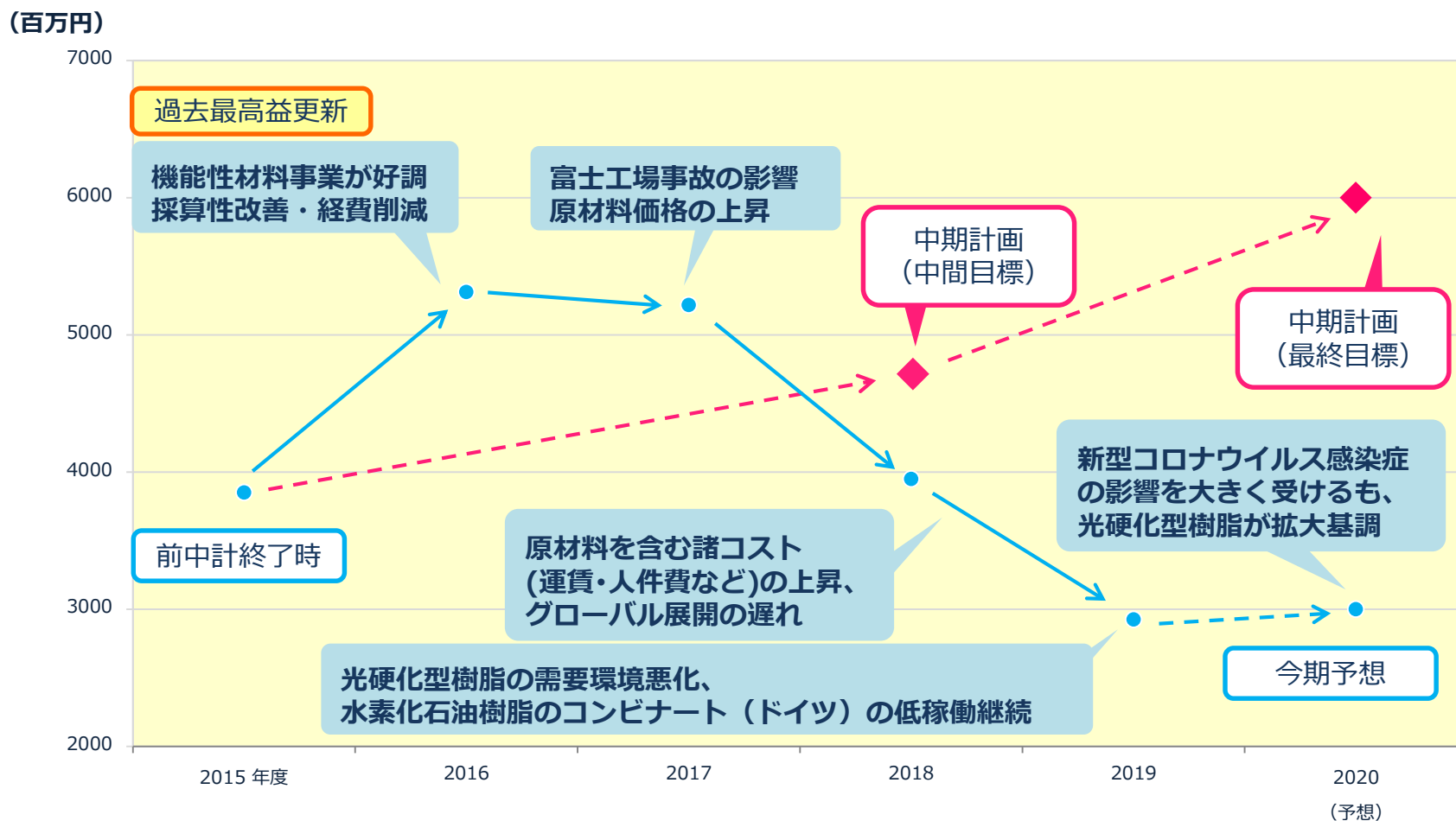
米中貿易摩擦

水素化石油樹脂第3拠点選定・ASEANにおける  
紙力増強剤の新拠点選定の時期ずれ

新型コロナウイルス感染症の拡大など

# 進捗状況（経常利益）

様々な要因により、目標達成は困難な状況



# 重点施策・真のグローバル化

| 市場・戦略                      | 国    | 製品      | 施策状況                                            |
|----------------------------|------|---------|-------------------------------------------------|
| A S E A Nでの<br>板紙需要の拡大に対応  | ベトナム | 紙力増強剤   | 2019年12月<br>荒川ケミカルベトナム社設立<br>2021年中の稼働に向けて建設に着手 |
| 中国での顧客ニーズに<br>スピーディーに対応    | 中国   | 精密部品洗浄剤 | 2019年6月<br>洗浄実験室を有する東莞分公司を開設<br>新規販売先の獲得を推進中    |
| グローバル需要への対応<br>原料からの一貫生産体制 | 日本   | 水素化石油樹脂 | 2019年7月 新プラントの起工式実施<br>2020年度中の稼働に向けて建設進行中      |

9月に地鎮祭を開催（ベトナム）



建設中の水素化石油樹脂  
製造プラント（千葉）





**2**

## **決算概況と今期予想**

# 2020年度上期の実績

(百万円)

|                      | 2019年度<br>上期 | 2020年度<br>上期 | 上段：増減額<br>下段：増減率 |
|----------------------|--------------|--------------|------------------|
| 売上高                  | 36,558       | 32,220       | △4,338<br>△11.9% |
| 営業利益                 | 920          | 969          | 48<br>5.3%       |
| 経常利益                 | 1,142        | 1,167        | 24<br>2.2%       |
| 親会社株主に帰属する<br>四半期純利益 | 454          | 710          | 256<br>56.4%     |
| EBITDA               | 2,244        | 2,411        | 166<br>7.4%      |

■ 2020年度上期：2020年4月～2020年9月の累計

■ EBITDA：償却前営業利益＝営業利益＋減価償却費

# 連結業績と今期予想

| 上段：百万円<br>下段：増減率    | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度<br>(予想) |
|---------------------|--------|--------|--------|--------|--------|----------------|
| 売上高                 | 79,119 | 77,380 | 80,782 | 79,501 | 72,967 | 67,500         |
|                     | △3.2 % | △2.2 % | 4.4 %  | △1.6%  | △8.2%  | △7.5%          |
| 営業利益                | 3,639  | 5,095  | 4,892  | 3,564  | 2,574  | 2,700          |
|                     | 22.9 % | 40.0 % | △4.0 % | △27.1% | △27.8% | 4.9%           |
| 経常利益                | 3,851  | 5,314  | 5,218  | 3,950  | 2,927  | 3,000          |
|                     | 12.2 % | 38.0 % | △1.8 % | △24.3% | △25.9% | 2.5%           |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 2,311  | 3,416  | 3,111  | 3,890  | 1,732  | 1,800          |
|                     | 3.9 %  | 47.8 % | △8.9 % | 25.0%  | △55.5% | 3.9%           |
| EBITDA              | 6,357  | 7,757  | 7,506  | 6,435  | 5,461  | 5,750          |
|                     | 12.3 % | 22.0 % | △3.2 % | △14.3% | △15.1% | 5.3%           |
| ROE                 | 5.0 %  | 7.1 %  | 6.0 %  | 7.1%   | 3.2%   | 3.4%           |

【2020年度】為替レート的前提条件 ① 1 USD = 110円 ② 1 EUR = 120円

# 新型コロナウイルス感染症の影響

## ■業績に与える影響

|         | 通期                                                   |
|---------|------------------------------------------------------|
| 関連業界の状況 | 足元では回復基調にあるが、期初の予想と比較して製紙業界、印刷業界、塗料業界、自動車業界の需要が大きく悪化 |
| 当社への影響  | 各セグメントで△5～△7%（期初予想）<br>↓<br>各セグメントで△10%～△17%（修正後）    |

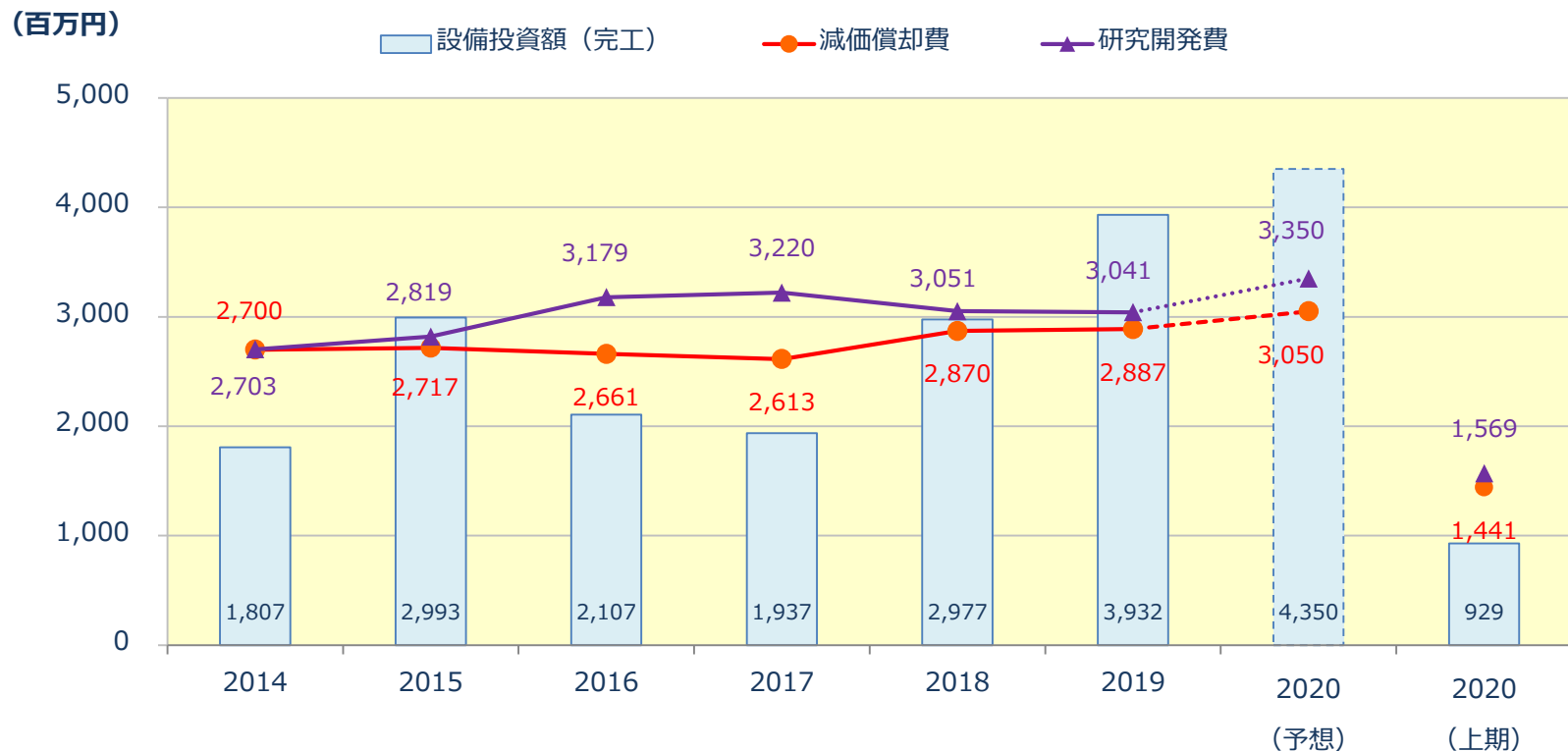
## ■感染拡大防止の取り組み例

社員およびその家族、取引先などの安全を確保

- ・工場における入場制限
- ・テレワーク
- ・時差出勤
- ・Web会議の積極活用 など

# 設備投資および研究開発費

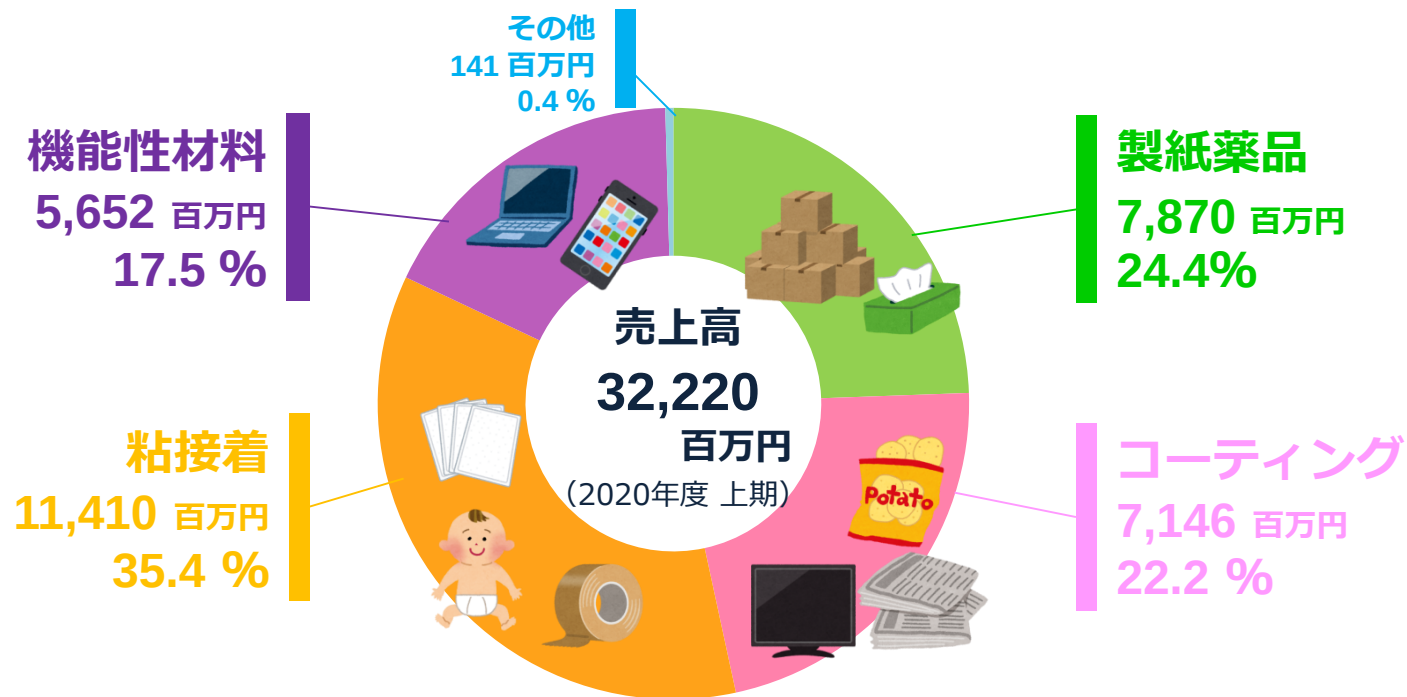
- ・ 設備投資：新型コロナウイルス感染症の影響などもあり、期初予想の46億50百万円から43億50百万円となる見込み
- ・ キャッシュベースでは別途、千葉アルコン製造プラント建設で建設仮勘定が約29億円増加



3

## セグメント別情報

# セグメント別売上高

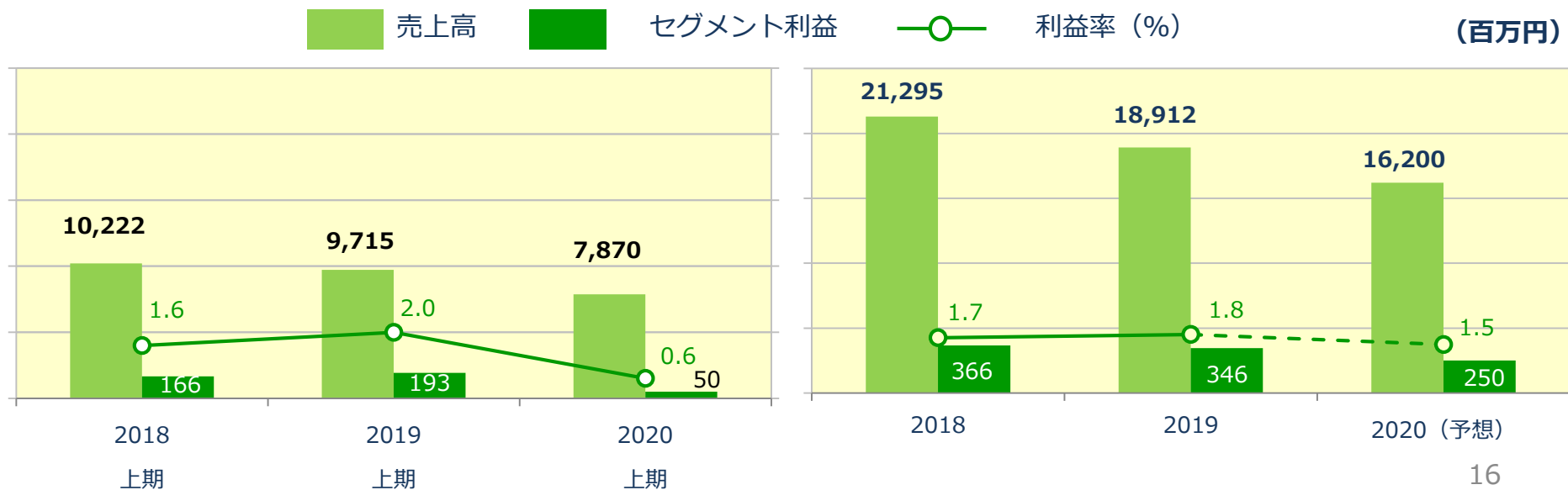


| セグメント  | 事業内容                                       |
|--------|--------------------------------------------|
| 製紙薬品   | サイズ剤、紙力増強剤、塗工紙用薬品等                         |
| コーティング | 印刷インキ用樹脂、塗料用樹脂、合成ゴム重合用乳化剤、光硬化型樹脂等          |
| 粘接着    | 粘着・接着剤用樹脂、超淡色ロジン等                          |
| 機能性材料  | 電子材料用配合製品、ファインケミカル製品、精密研磨剤、精密部品洗浄剤および洗浄装置等 |

■ 新型コロナウイルス感染症の影響による需要低下があり、サイズ剤に加え、板紙向け紙力増強剤などの販売が大幅に減少

## 2020年度見通し

■ 同感染症の影響により、チラシ等の印刷物の需要の回復は限定的





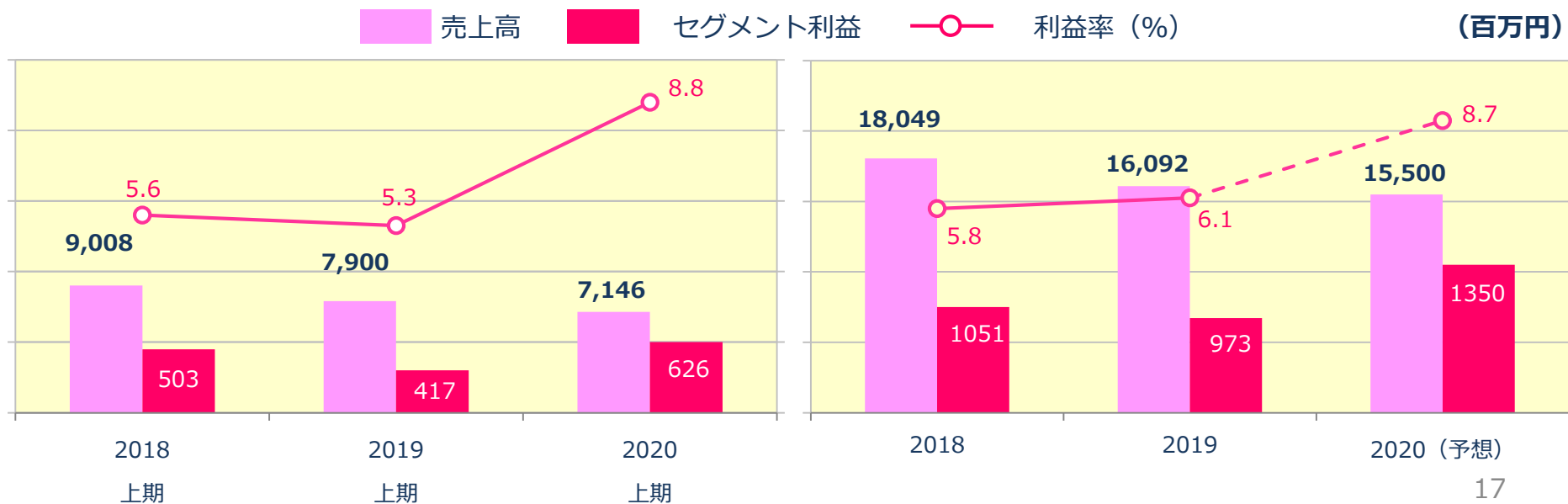
減収増益

# コーティング事業

- 印刷インキ用樹脂や塗料用樹脂、合成ゴム用乳化剤などの販売は大幅に減少
- 機能性コーティング材料用の光硬化型樹脂の販売は好調

## 2020年度見通し

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、印刷インキ用樹脂・塗料用樹脂や合成ゴム用乳化剤などの需要が減少



## 減収減益

# 粘接着事業

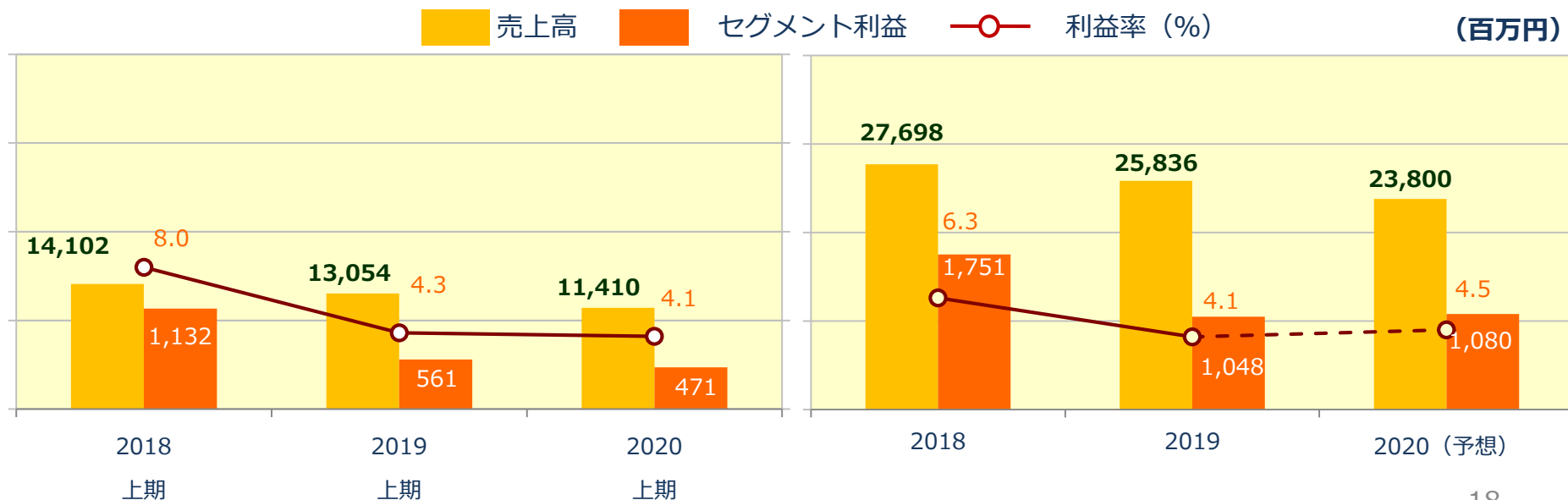
■ 自動車関連分野を中心にロジン系粘着・接着剤用樹脂の販売が大幅に減少

■ 水素化石油樹脂

…市場における需給バランスの軟化や新型コロナウイルス感染症の影響により  
販売が減少

2020年度見通し

■ 新型コロナウイルス感染症の影響により自動車関連分野を中心に需要が減少



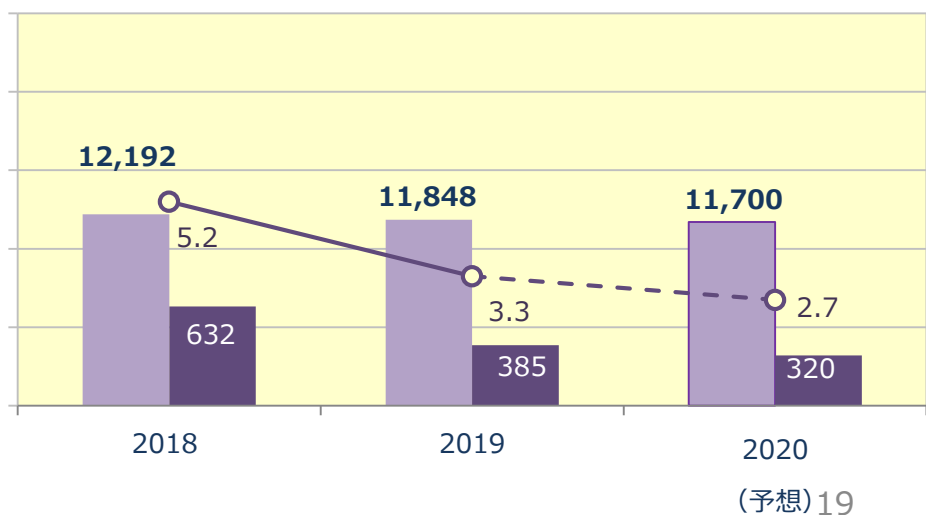
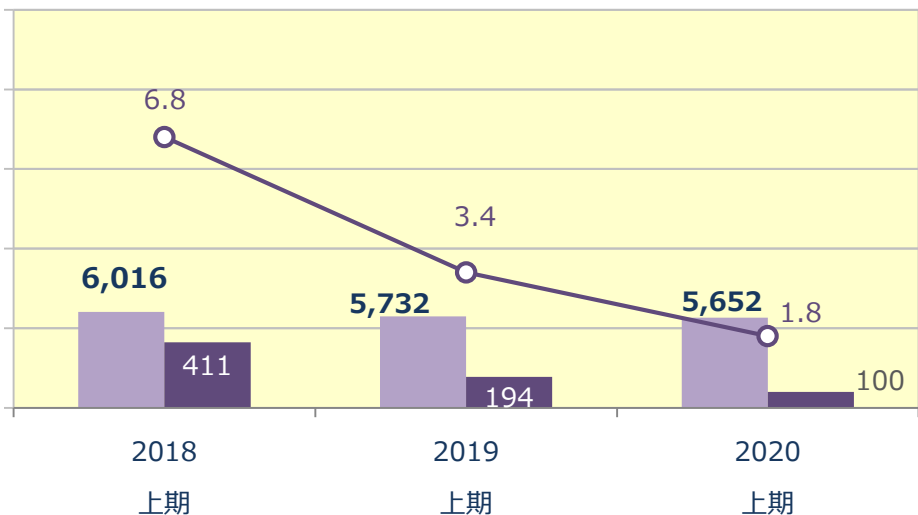
- ファインケミカル製品や精密研磨剤の販売は堅調
- 自動車関連分野や電子部品向けを中心に、精密部品洗浄剤や電子材料用配合製品などの販売は減少

## 2020年度見通し

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、自動車関連や電子部品向けは販売が減少、半導体関連やHDD関連は堅調に推移

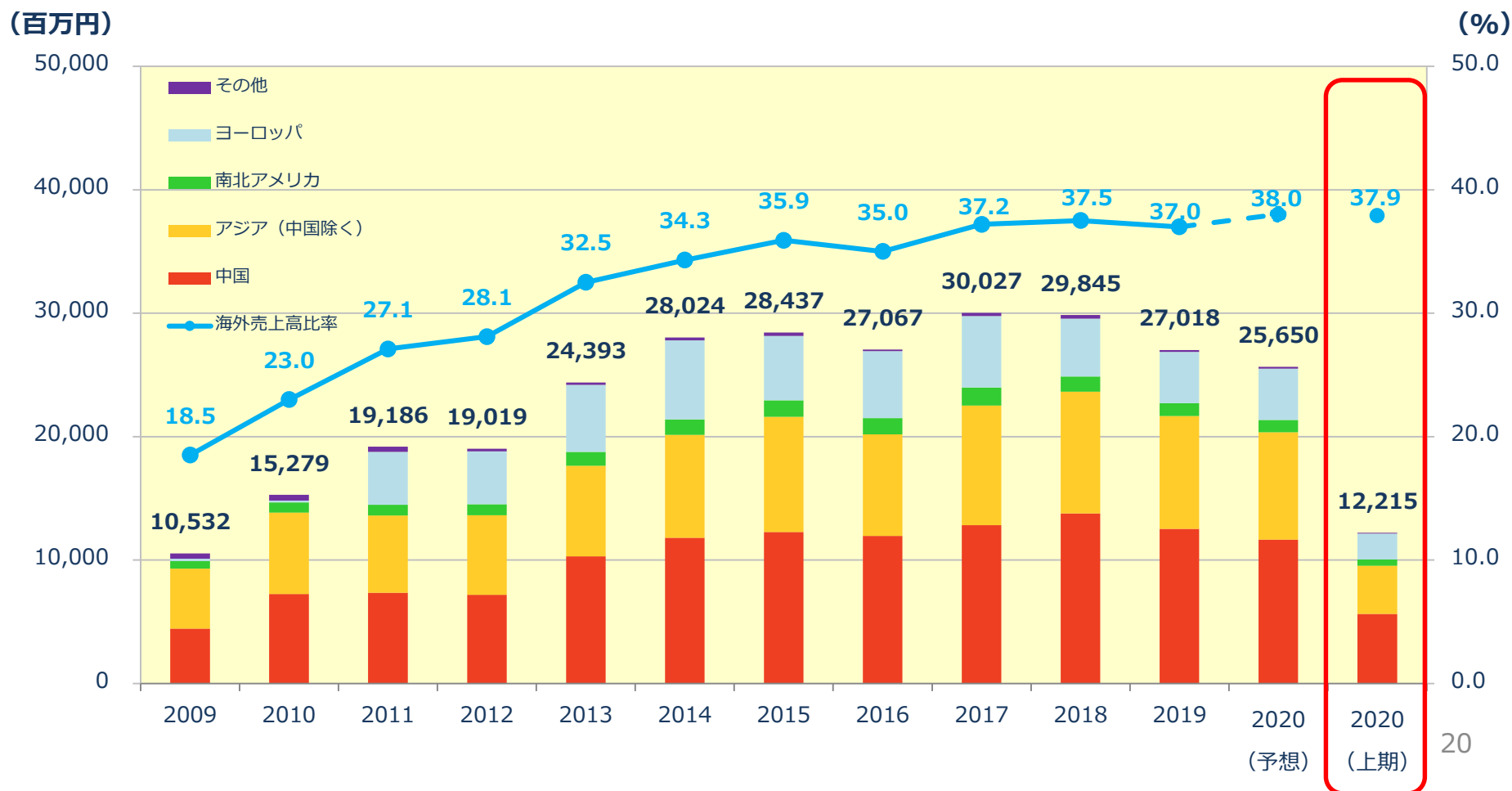
売上高 セグメント利益 利益率 (%)

(百万円)



# 海外売上高・比率 推移

国内事業の方が、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、  
海外売上高比率は2019年度上期37.0%から37.9%に増加



4

## 事業と製品

# 当社製品の特徴

🧪 印は主にロジン系製品

## 荒川化学の製品（つなぐ技術）

### 製紙薬品事業

サイズ剤 🧪 にじみをふせぐ

紙力増強剤 丈夫にする

### コーティング事業

印刷インキ用樹脂 🧪 綺麗に鮮やかに

機能性コーティング剤 表面をまもる

### 粘接着事業

水素化石油樹脂

粘着・接着剤用樹脂 🧪 くっつくチカラをコントロール

超淡色ロジン 🧪 人と環境にやさしい

### 機能性材料事業

はんだ・精密部品洗浄 🧪 安全、環境にやさしい

## ユーザーの製品

紙



印刷インキ



ディスプレイ



粘着・接着剤



医療用他



電子材料他

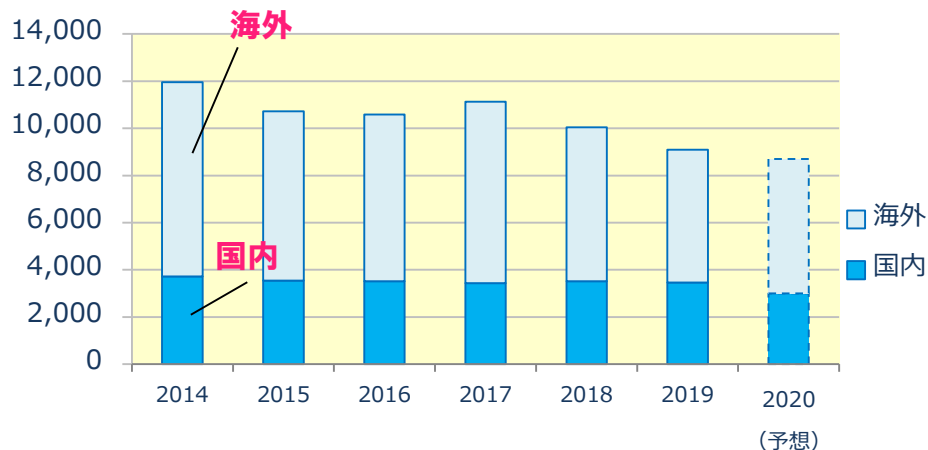


# 水素化石油樹脂

## 粘接着

- **世界で初めて工業化に成功**（1965年上市）
- **コスモEHD、丸善石油化学と3社合併で2018年2月に千葉アルコン製造(株)を設立**  
⇒ 原料の効率的・安定的調達、一貫生産によるコスト競争力、インフラ有効活用  
**2020年度中に稼働開始予定**
- **紙おむつ用接着剤で伸長**  
⇒ 国内高齢化でおとな用需要拡大、新興国生活水準向上
- **競合他社の供給能力増強により、ボリュームゾーンでの競争激化**  
⇒ ドイツのコンビナートの低稼働、需給バランスの軟化など

売上高  
(百万円)



## 主な競合他社の動き

| 企業名 | 生産能力     | 稼働開始時期 |
|-----|----------|--------|
| X社  | 9万t／年間   | 2018年  |
| Y社  | 2.5万t／年間 | 2020年初 |

# 機能性コーティング剤

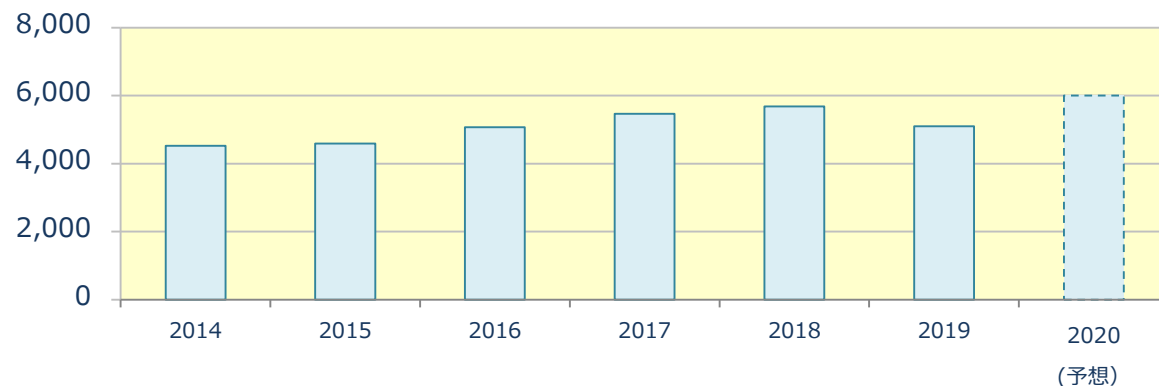
## コーティング

- 光で瞬時に固まり、省エネルギー、環境負荷低減（VOC削減）
- 要求特性を実現する樹脂設計と配合技術力
- フィルムコーティングの高機能化に



売上高（百万円）

ビームセット、オプスター（光硬化タイプ）



■ ディスプレイ

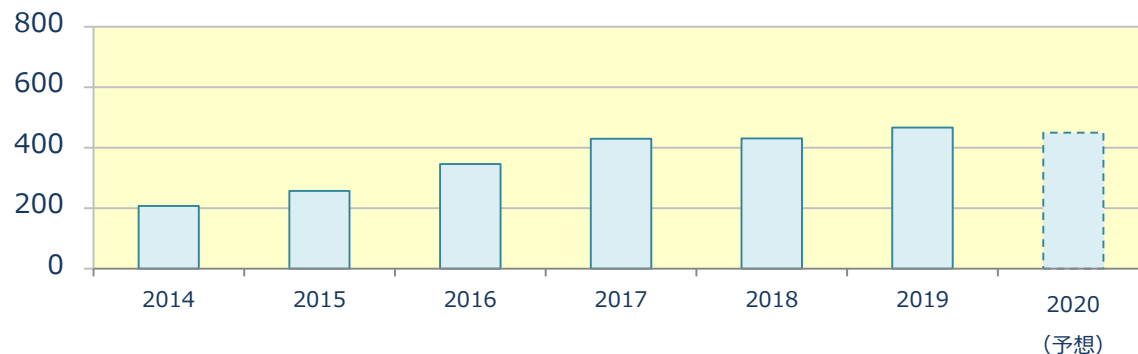


■ スマートフォン

- IC生産工程用
- インデックスマッチング
- 印刷インキ・塗料
- クリアワニス

売上高（百万円）

アラコート（熱硬化タイプ）



- 帯電防止コーティング剤
- UVコーティング用アンカー剤
- 蒸着用アンカー剤
- 熱硬化型自己修復コーティング剤
- 離型コーティング剤



# 精密部品洗浄システム

## 機能性材料

### ■ 2019年6月

中国販売子会社に洗浄実験室を有する東莞分公司を開設

⇒精密部品洗浄事業の中国国内でのニーズに対し、

営業体制の強化および迅速なソリューション体制の提供

### ■ 廃水ゼロを目指した技術開発

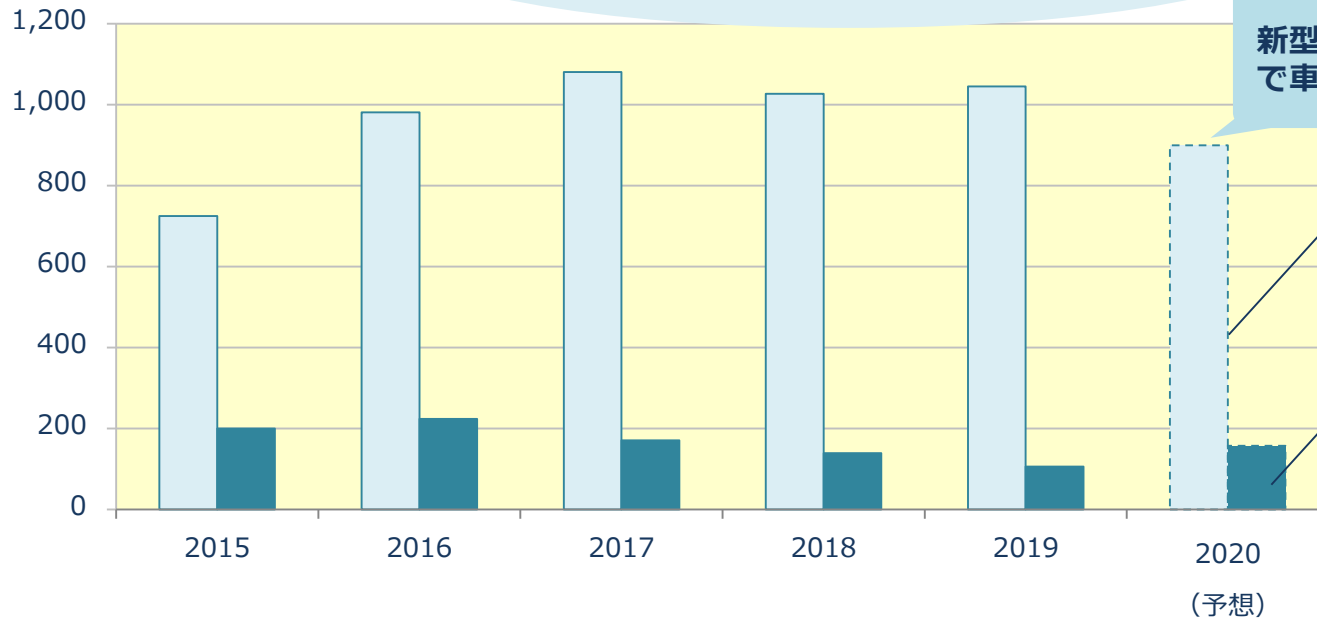
## 洗浄実験室



売上高  
(百万円)

■ 実装基板, FC, HDDハブ, カメラモジュール,  
LED, WL-CSP, パワーデバイスなど

新型コロナウイルス感染症の影響  
で車載向けの販売が減少

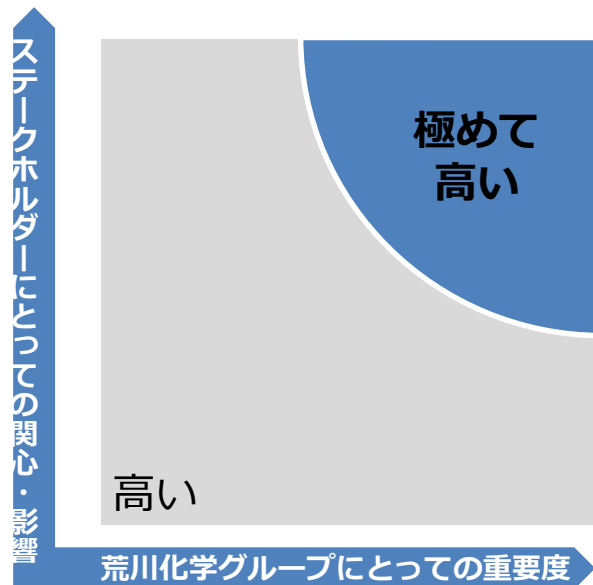


**5**

**持続可能な成長を目指して**

# 荒川化学グループのマテリアリティ

地球環境や社会を含むすべてのステークホルダーにとっての関心・影響と荒川化学グループの重要度の観点から20個のマテリアリティ（重要課題）を策定し（\*）、さらに優先的に取り組むべき課題を特定しました。



## 優先的な重要課題

- 安全文化の醸成
- 環境保全の強化
- ガバナンスの強化
- 多様な人材の雇用・育成
- 働きがい改革
- N E X T 事業の創出
- 事業のグローバル化推進
- マーケティング力・研究開発力の強化
- 生産体制再構築
- 健全な財務基盤
- 持続可能な調達と供給
- 品質マネジメントの強化

\* 策定にあたってはSDG CompassやGRIスタンダードなどグローバルガイドラインを参照しました。

# ESGの取り組み

荒川化学グループは経営理念のもと、化学メーカーとして安全・環境配慮を重視した経営を実践し、社会から認められ続ける会社を目指し、144年を歩んでまいりました。

この考えは、国連の2030年目標であるSDGs（貧困、エネルギー、気候変動等の世界の課題に対し17の開発目標を示したもの）にも通じるものです。

当社は**ESG（環境・社会・企業統治）経営**を通し、**SDGs**にも関連付けながら、さらに社会に貢献してまいります。



## 環境保全や技術開発による取り組み

| 開発目標                                                                                                                                                                | 荒川化学が提供する価値                                                                                                                                                                                  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> <p>強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの促進を図る</p> | <p>暮らしの利便性、快適性を高める製品を提供し続けるための技術開発</p>  <p>14 海の豊かさを守ろう</p> <p><b>* 海洋生分解バイオマスプラスチック開発プラットフォームへ参画</b></p> |
|  <p>12 つくる責任 つかう責任</p> <p>持続可能な生産消費形態を確保する</p>                                   | <p>具体的な目標を掲げた製品ライフサイクルにおける化学物質の適正管理、産業廃棄物処理活動</p>                                                                                                                                            |
|  <p>13 気候変動に具体的な対策を</p> <p>気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる</p>                        | <p>具体的な目標数値を掲げた温室効果ガス削減活動</p>                                                                                                                                                                |



# 社会貢献活動



## 次代へつなぐ取り組み

### 開発目標

### 荒川化学が提供する価値



すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

「楽しく化学する」を基本に小学生対象の体験学習の実施、若手、中堅社員の海外研修制度、先進国およびその他の開発途上国における高等教育の奨学金制度



包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する

イキイキ・ワクワクと働ける環境整備の推進と充実化  
**多様な人材の雇用・育成**  
**安全文化の醸成活動促進**

▶ 宇根社長と  
女性活躍推進メンバー



陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の促進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

地域の松林復元に寄与する

「マツタロウの森」プロジェクト他の植林活動

**\* 岡山県二酸化炭素森林吸収評価認証委員会より意見書を受領**

# 新規事業への取り組み

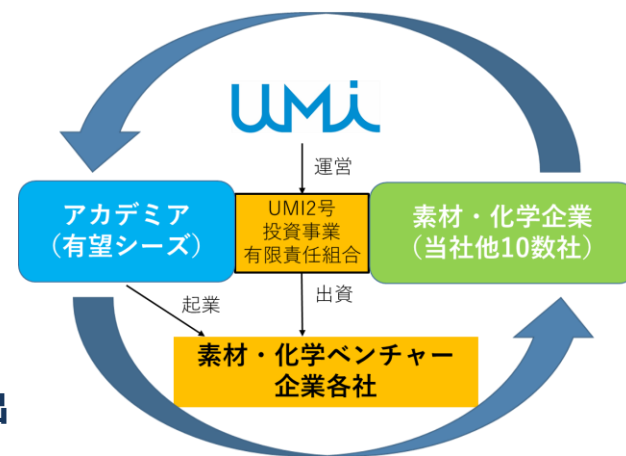


## 当社初の試みとなるベンチャーファンドへの出資

ユニバーサル マテリアルズ インキュベータ社  
(以下、UMI社) が運営するベンチャーファンドである  
UMI 2号投資事業有限責任組合 (UMI 2号ファンド) への出資

- ① 素材・化学産業における新事業創出プラットフォームの確立
- ② 次世代有望素材・化学分野シーズの発掘・  
産業界連動型の事業化支援
- ③ 日本を基軸にグローバルに羽ばたく素材・化学分野の新事業の創出

- ・ 2019年4月ファンド設立
- ・ ファンド規模：最大110億円
- ・ 出資企業 10数社



### 【投資の目的や狙い】

UMI ファンドは、**素材・化学産業に特化した日本唯一のファンドで、投資事業領域も当社の注目分野と合致**（例）環境、ライフサイエンス、電子など

各種テーマ情報が提供され、個々のテーマ・技術・会社・大学との接点や協業関係を構築、新規事業に繋げる

# ガバナンス体制強化



## 経営理念の共有と実践（※KIZUNA活動）

- KIZUNA活動の継続により、根幹の揺らぐことのない経営を実践する
- リスク管理や内部統制制度、コンプライアンス、コーポレートガバナンス・コードへの取り組みを徹底し、中長期的な収益性・生産性を高め、好循環につなげることで企業価値の向上と社会貢献に努める

※KIZUNAは、“**ARAKAWA WAY** 5つの**KIZUNA**”の略称であり、当社グループの大切にしている価値観・行動指針を明文化したものと

改めて安全を「**まもる**」大切さを共有し、安全文化を醸成していく



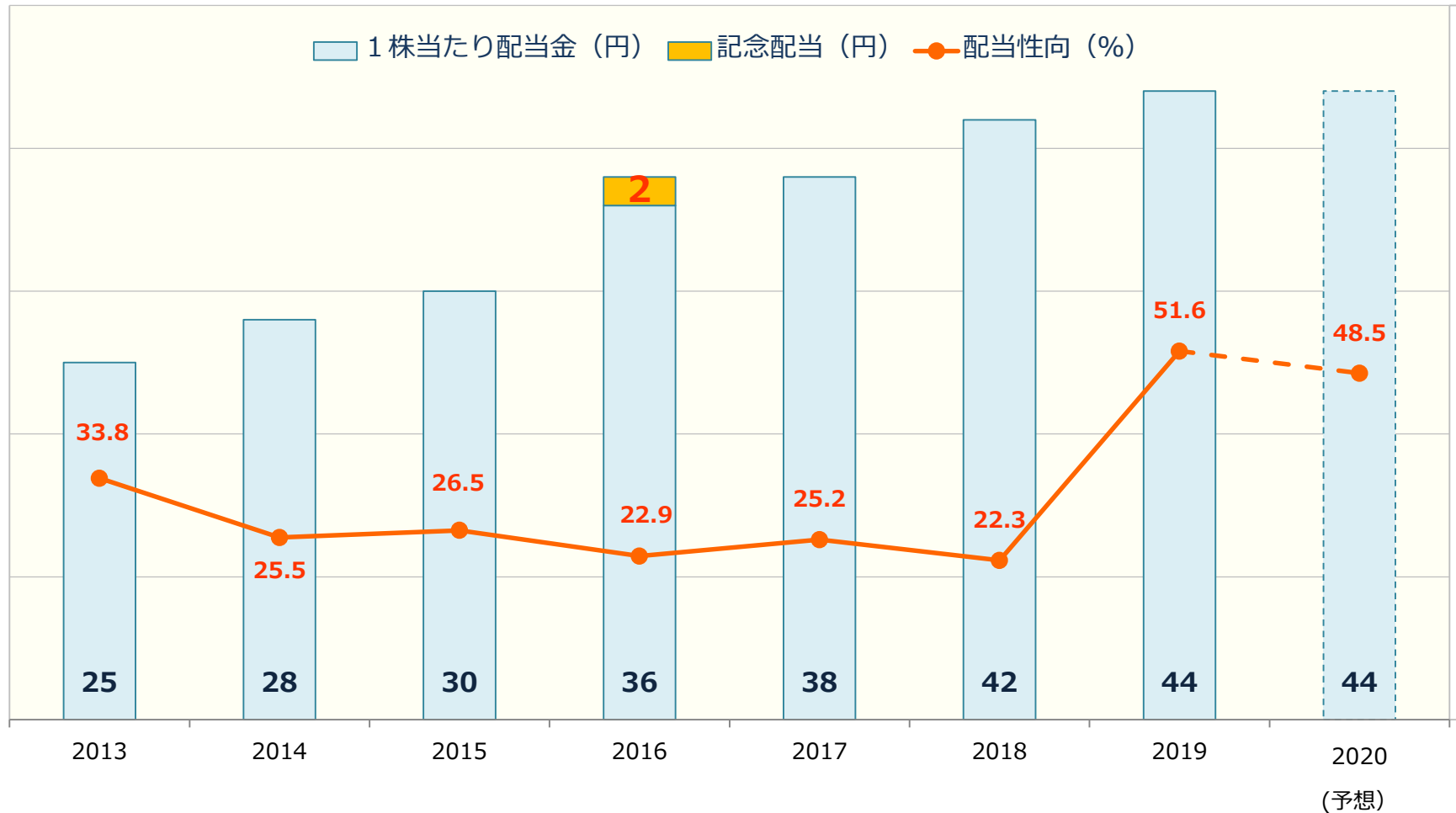
価値観・行動指針



集合研修  
(KIZUNAワークショップ)

# 配当金の推移

連結配当性向については、30%程度を目処に安定的な配当水準を維持

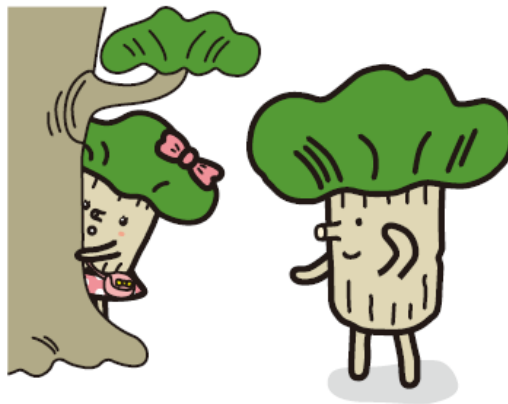




## 見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。

# 荒川化学工業株式会社



# 参考資料

## <目次>

- 会社概要
- 沿革
- ネバネバ！ロジンのチカラ
- 明治9年 大阪 道修町で創業
- 広がるグローバルネットワーク

- 超淡色ロジン
- 低誘電ポリイミド樹脂（PIAD）
- ファインケミカル製品
- 電子材料用配合製品
- 精密研磨剤

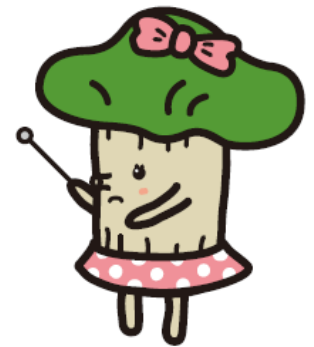
- 財政状態
- 総資産・有利子負債推移
- キャッシュフロー推移
- 売上原価・販売管理費推移
- ロジン価格の推移

## Dramatic SHIFT 1（第4次中計 補足資料）

- 基本方針
- SHIFT実現体制の構築
- 事業の新陳代謝の実践
- 真のグローバル化
- 連結指標

- 富士工場の事故について

- 株価推移
- 株式情報



# 会社概要

■ 2020年3月末現在

|                     |                                                                                                                                                      |
|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 商 号                 | 荒川化学工業株式会社                                                                                                                                           |
| 所 在 地               | 大阪府中央区平野町1丁目3番7号                                                                                                                                     |
| 代 表 者               | 取締役社長 宇根 高司                                                                                                                                          |
| 創 業                 | 明治9年（1876年）                                                                                                                                          |
| 会 社 設 立             | 昭和6年（1931年）                                                                                                                                          |
| 資 本 金               | 3,343百万円                                                                                                                                             |
| 従 業 員 数             | 1,557名（連結）                                                                                                                                           |
| 主 要 取 引 先<br>（五十音順） | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 王子ホールディングス</li><li>・ 関西ペイント</li><li>・ JSR</li><li>・ 東洋インキSCホールディングス</li><li>・ 日東電工</li><li>・ リンテック</li></ul> |



1926年（大正15年）商標登録

当時としてはモダンなアルファベット表記

# 沿革

|       |         |                                                     |
|-------|---------|-----------------------------------------------------|
| 1876年 | (明治9年)  | 大阪で生薬商として創業                                         |
| 1914年 | (大正3年)  | 鳴野工場を開設し、ロジンの製造開始                                   |
| 1928年 | (昭和3年)  | ロジン系塗料用樹脂の製造開始                                      |
| 1937年 | (昭和12年) | ロジン系印刷インキ用樹脂の製造開始                                   |
| 1954年 | (昭和29年) | 製紙用薬品（サイズ剤）の製造開始                                    |
| 1967年 | (昭和42年) | 台湾に天立化学（現 台湾荒川化学）を設立                                |
| 1977年 | (昭和52年) | 荒川林産化学工業(株)から荒川化学工業(株)に改称                           |
| 1995年 | (平成7年)  | 中国に梧州荒川化学を設立                                        |
| 1999年 | (平成11年) | 大証第二部に株式上場                                          |
| 2003年 | (平成15年) | 東証・大証第一部に株式上場<br>日本ペルノックス（株）（現 ペルノックス（株））が当社グループに加入 |
| 2004年 | (平成16年) | 中国に南通荒川化学、広西荒川化学を設立                                 |
| 2008年 | (平成20年) | 中国に広西梧州荒川化学を設立                                      |
| 2010年 | (平成22年) | ダウ・ケミカル社のドイツの「アルコン」事業を取得                            |
| 2011年 | (平成23年) | 中国に荒川化学合成（上海）有限公司を設立                                |
| 2012年 | (平成24年) | 台湾に柏彌蘭科技股份有限公司（ポミラン・テクノロジー社）を設立                     |
| 2014年 | (平成26年) | 台湾に日華荒川化学股份有限公司を設立                                  |
| 2015年 | (平成27年) | 山口精研工業（株）（名古屋）が当社グループに加入                            |
| 2018年 | (平成30年) | 千葉アルコン製造（株）を設立<br>荒川化学合成（上海）有限公司 東莞分公司を開設           |
| 2019年 | (令和元年)  | 荒川ケミカルベトナム社を設立                                      |

# ネバネバ！ロジンのチカラ

ロジンとは松脂を精製してつくられる樹脂のこと。

松の木にキズをつけると、**ネバネバした松脂**がにじみ出てきます。



**世界で古くから  
使われている天然資源！**



# 明治9年 大阪 道修町で創業

## 経営理念

個性を伸ばし  
技術とサービスで  
みんなの夢を実現する



商店時代の看板  
□に玉で「カクタマ」と読む



木箱に入った国産ロジン

道修町は薬のまち！



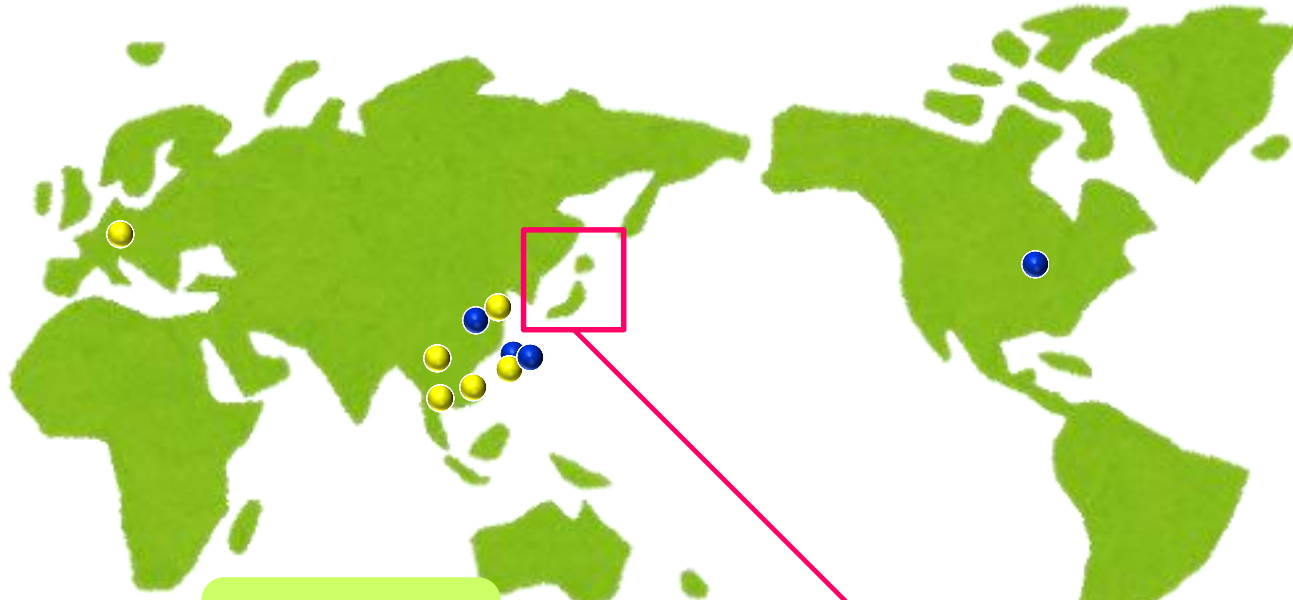
明治末期の道修町の様子



前列中央が荒川正太郎（初代社長）



# 広がるグローバルネットワーク



## 海外事業所

### ● 製造・販売拠点

荒川ヨーロッパ（ドイツ）  
広西梧州荒川（中国）  
南通荒川（中国）  
荒川ケミカル（タイランド）  
台湾荒川  
荒川ケミカルベトナム社

### ● 販売拠点

荒川化学合成（上海）  
荒川ケミカル（米国）  
日華荒川（台湾）  
ボミランテクノロジー（台湾）

## 国内事業所

### 製造拠点

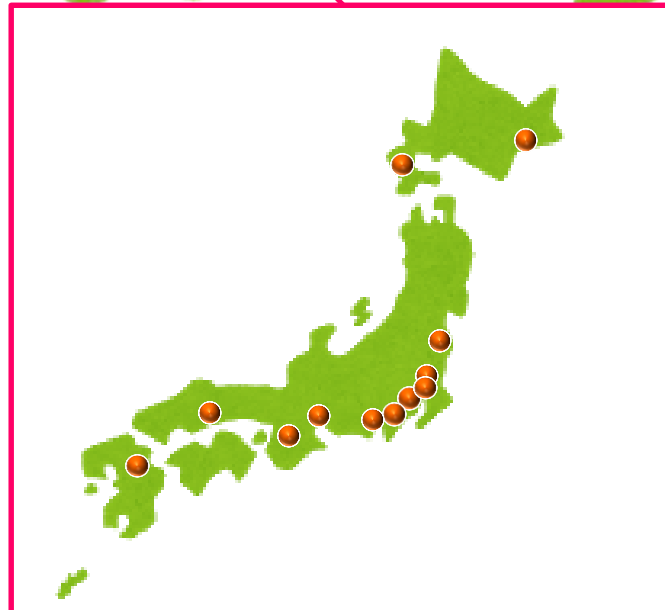
大阪工場  
富士工場  
水島工場  
小名浜工場  
釧路工場  
鶴崎工場

### 研究所

研究所（大阪）  
筑波研究所

### 販売拠点

本社  
東京支店  
名古屋支店  
営業所3地域



大阪から世界へ！



## 国内関係会社

ペルノックス（秦野）  
高圧化学工業（大阪）  
山口精研工業（名古屋）  
カクタマサービス（大阪）  
千葉アルコン製造（千葉）

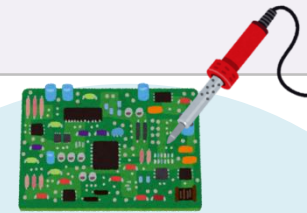
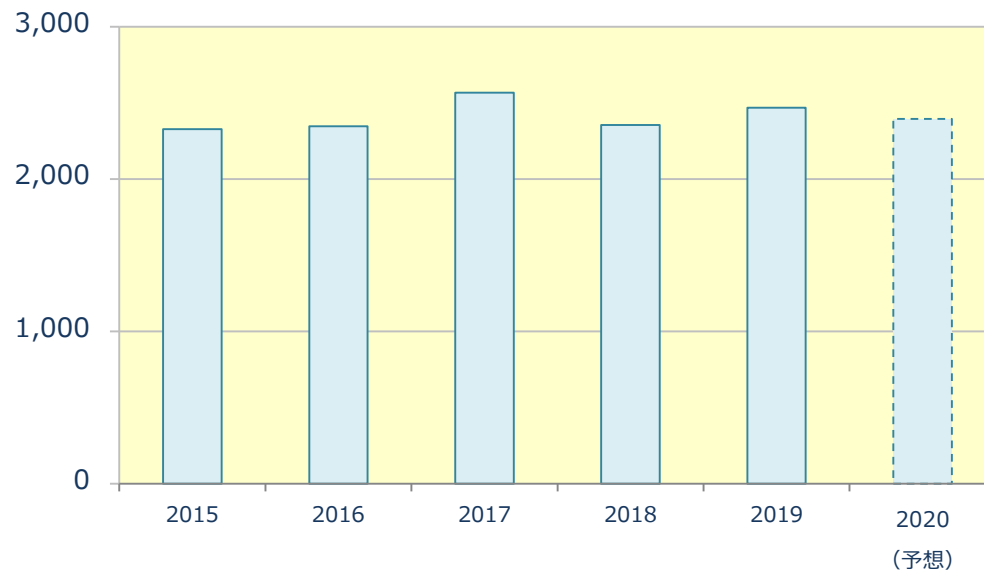
# 超淡色ロジン

## 粘接着

- **オンリーワン**製品（琥珀色のロジンを高圧水素化技術により無色化）
- 鉛フリーはんだ用フラックスの**業界標準**
- **ライフサイエンス**分野にも進出
- 超淡色**液状**ロジンエステル開発



売上高  
(百万円)



■ 鉛フリーはんだ用フラックス



■ 医療用ハップ剤



■ 3Dプリンター関連部材

■ 光学フィルム関連部材

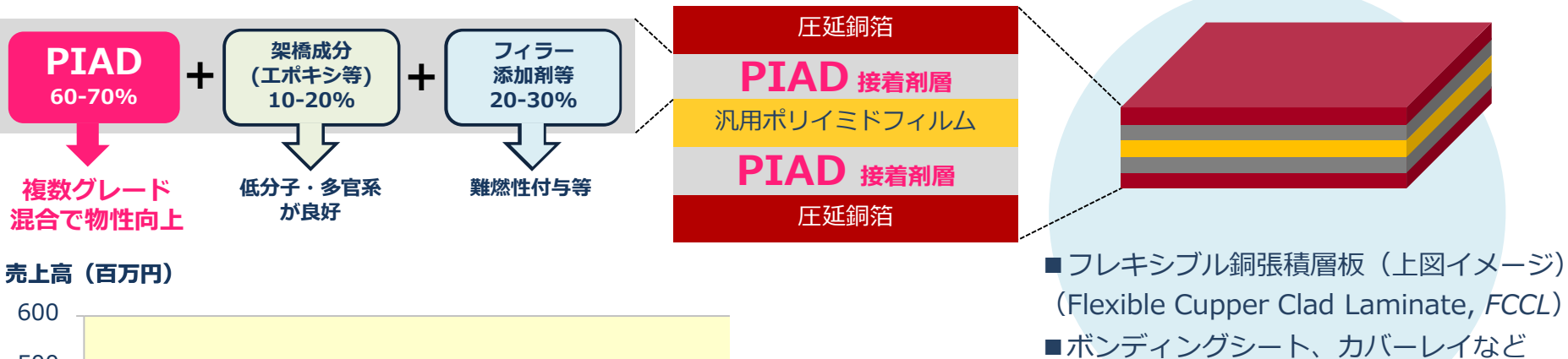
- **ほぼ無色、不純物が少ない**
- **熱安定性がよい**



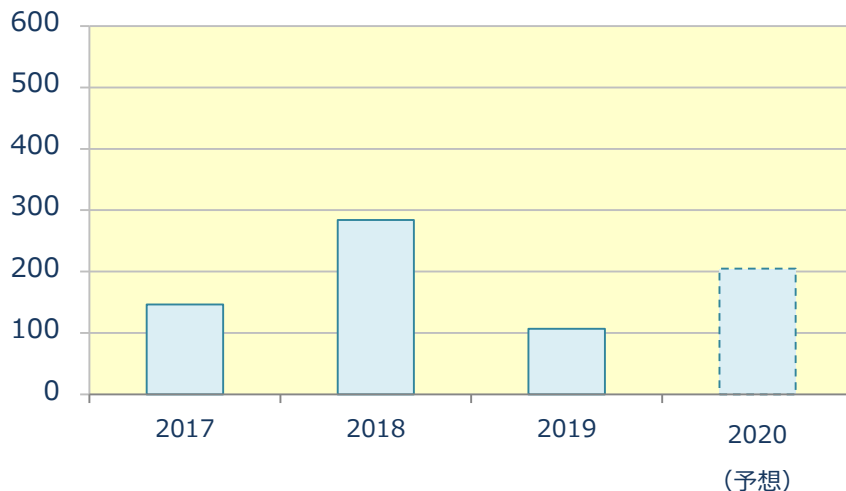
# 低誘電ポリイミド樹脂（PIAD）

## 機能性材料

- 低誘電、高耐熱、高接着性、柔軟性（独自のポリマー重合技術）に優れる高付加価値製品
- 処理データの高速化、大容量化（高周波化）に伴う電気信号の伝送損失を抑える  
⇒次世代通信技術「5G」に対応するフレキシブル基板向け低誘電接着剤として注目される



売上高（百万円）



製品外観  
（液体）



架橋成分や  
フィラーなど  
配合し、熱硬化



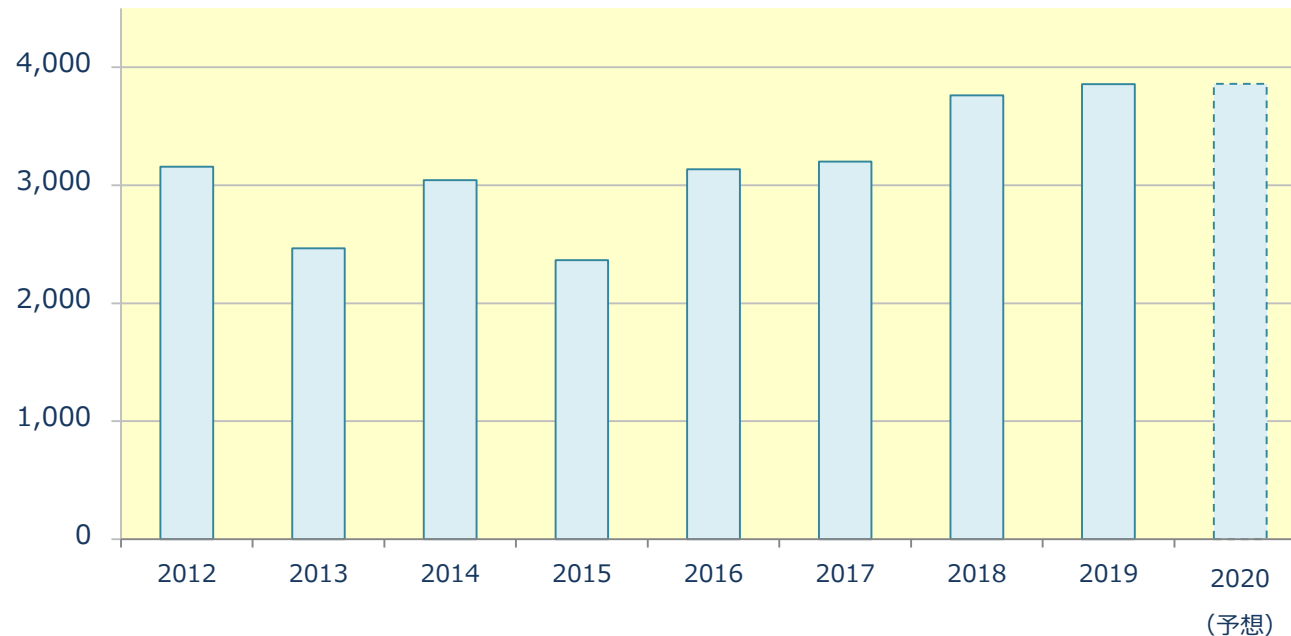
硬化後

# ファインケミカル製品

## 高圧化学工業

- 機能性ファインケミカル製品(中間素材)を**高度な品質管理体制下**で受託製造
- 耐腐食性高圧反応設備（**ハステロイ製**）で高付加価値化  
⇒アルカリから酸条件下の広範囲のpH域での使用に対応でき、通常の材質では腐食を伴う反応でも生産が可能に

売上高  
(百万円)



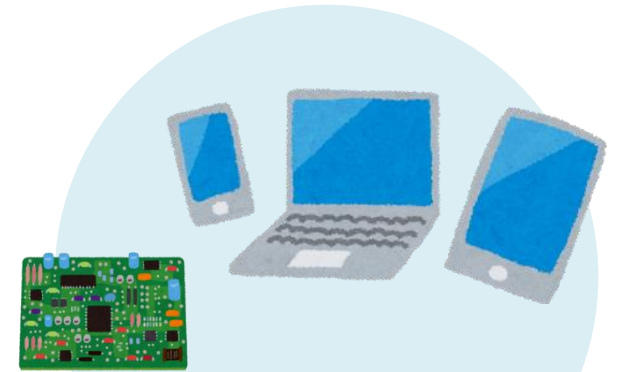
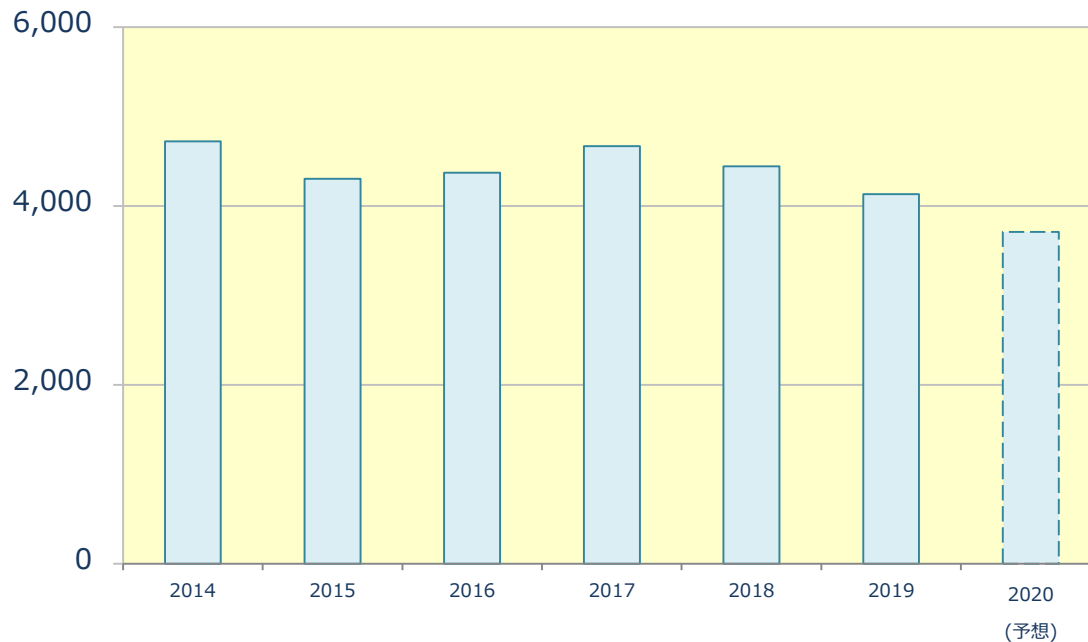
- 電子材料用途
- 医薬品用途

# 電子材料用配合製品

## ペルノックス

■ エポキシ樹脂、シリコン樹脂などの樹脂と フィラーの配合・分散技術に強み

売上高  
(百万円)



- 導電性材料（タッチパネル用銀ペースト）
- エポキシ樹脂製品

# 精密研磨剤

## 山口精研工業

### 業界動向

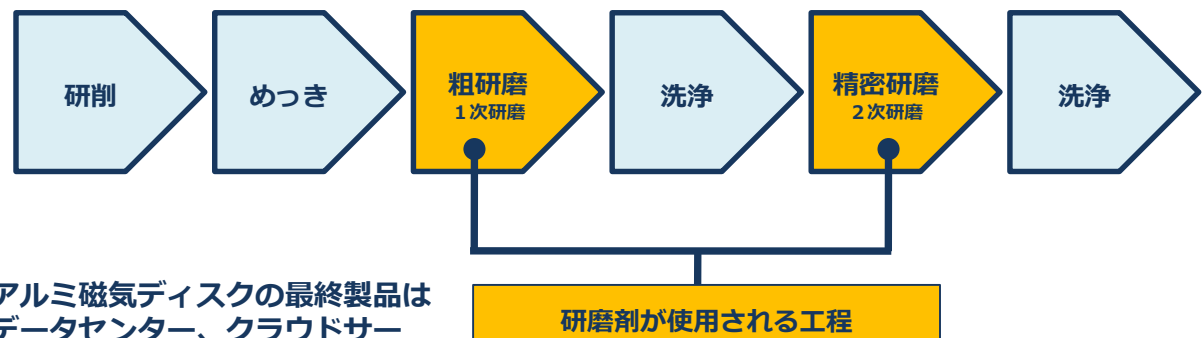
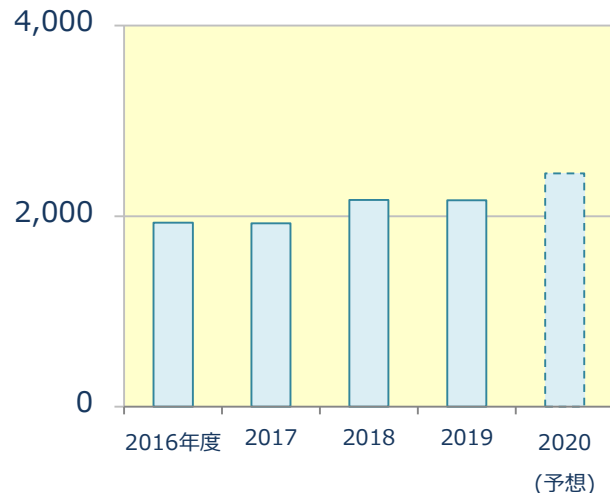
ノートPC等の基板市場はSSDが侵食も、大容量化が進むデータセンター市場はHDDの需要拡大。HDD基板は高容量のための薄型化、面品質の向上とコスト削減でアルミ基板とガラス基板がしのぎを削っている。

### 山口精研

- アルミ磁気ディスク用研磨剤を主体に各種金属などの鏡面研磨剤を扱う
- 薄型化に対応した研磨剤開発に注力



売上高  
(百万円)

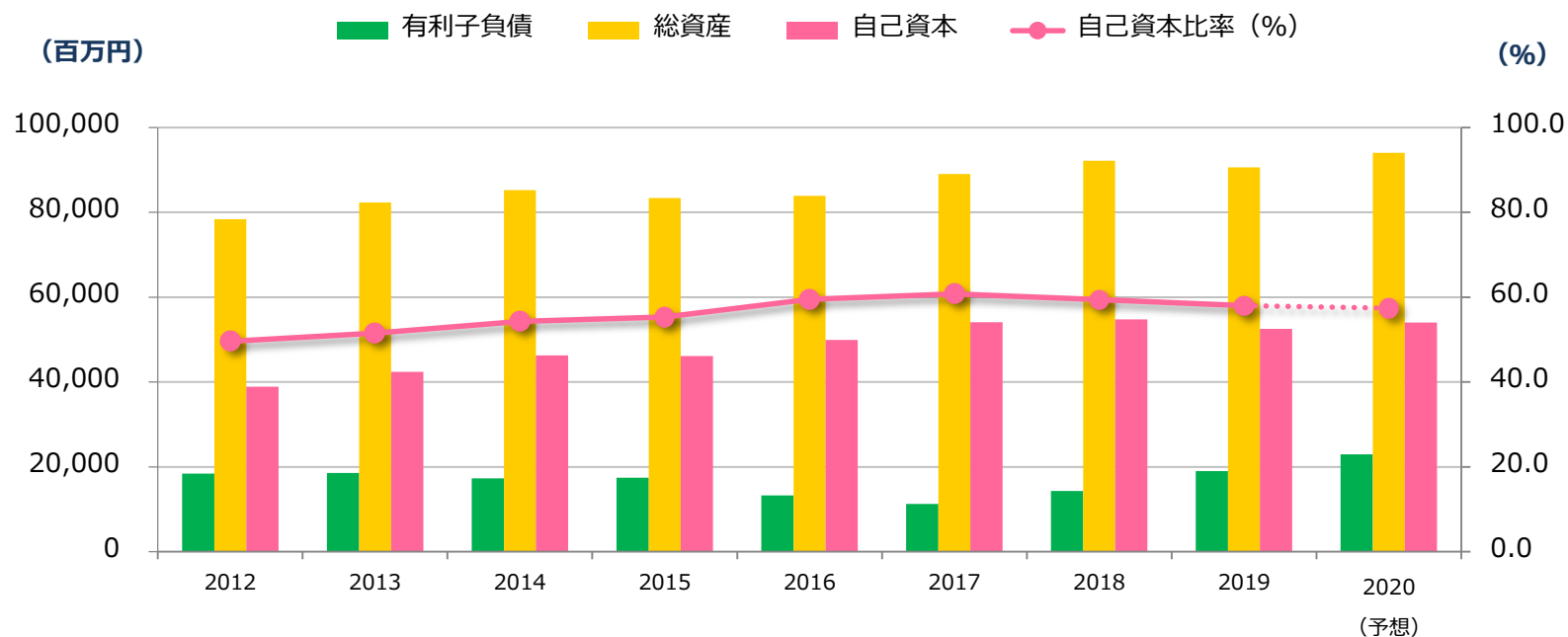


# 総資産・有利子負債推移

(百万円)

| 年度                          | 2012   | 2013   | 2014   | 2015   | 2016   | 2017   | 2018   | 2019   | 2020<br>(予想) |
|-----------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------------|
| 有利子負債                       | 18,407 | 18,605 | 17,275 | 17,426 | 13,300 | 11,269 | 14,349 | 19,045 | 23,000       |
| 総資産                         | 78,372 | 82,342 | 85,245 | 83,380 | 83,898 | 89,019 | 92,174 | 90,600 | 94,000       |
| 自己資本                        | 38,888 | 42,408 | 46,252 | 46,129 | 49,915 | 54,123 | 54,747 | 52,546 | 54,000       |
| 自己資本比率 (%)                  | 49.6   | 51.5   | 54.3   | 55.3   | 59.5   | 60.8   | 59.4   | 58.0   | 57.4         |
| 有利子負債自己資本倍率<br>(D/Eレシオ) (倍) | 0.47   | 0.44   | 0.37   | 0.38   | 0.27   | 0.21   | 0.26   | 0.36   | 0.43         |

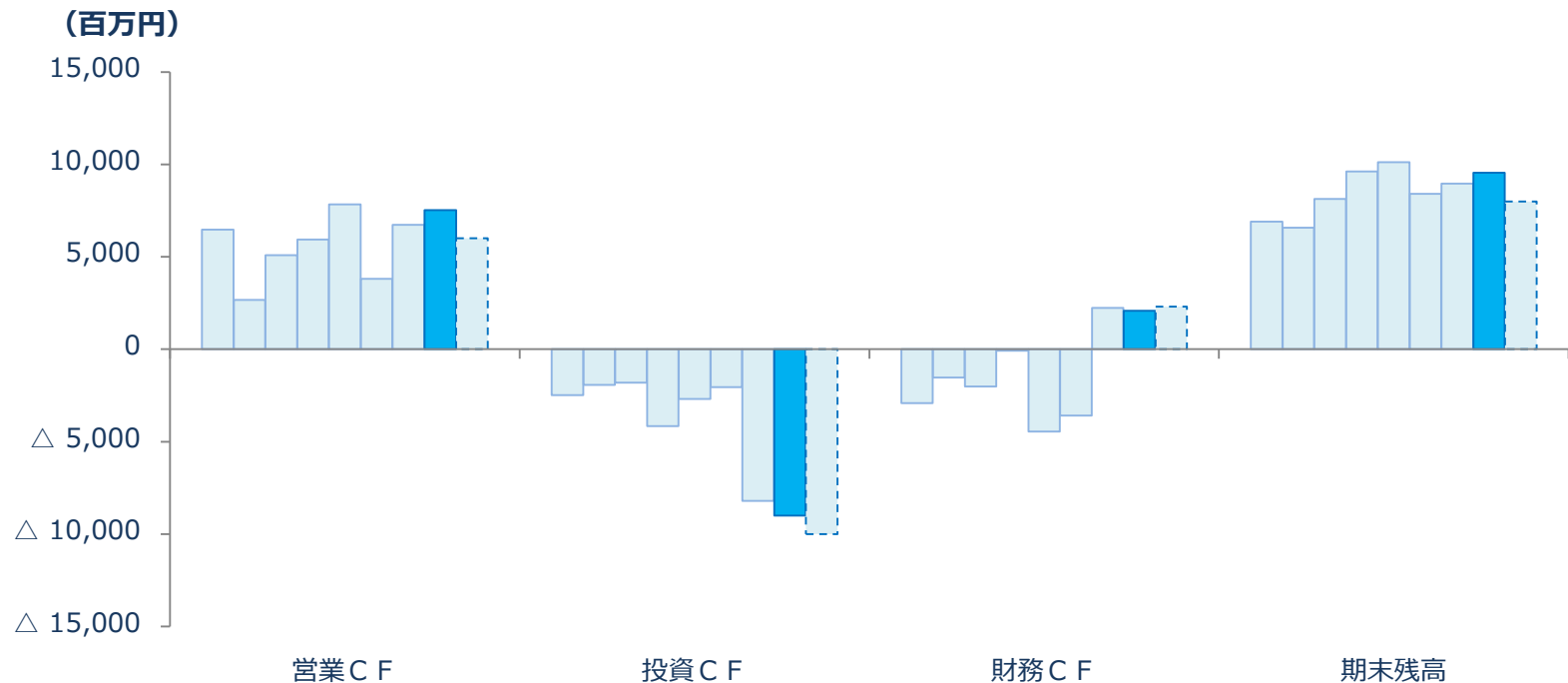
\* 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）を2018年度の期首から適用しており、2017年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。



# キャッシュフロー推移

(百万円)

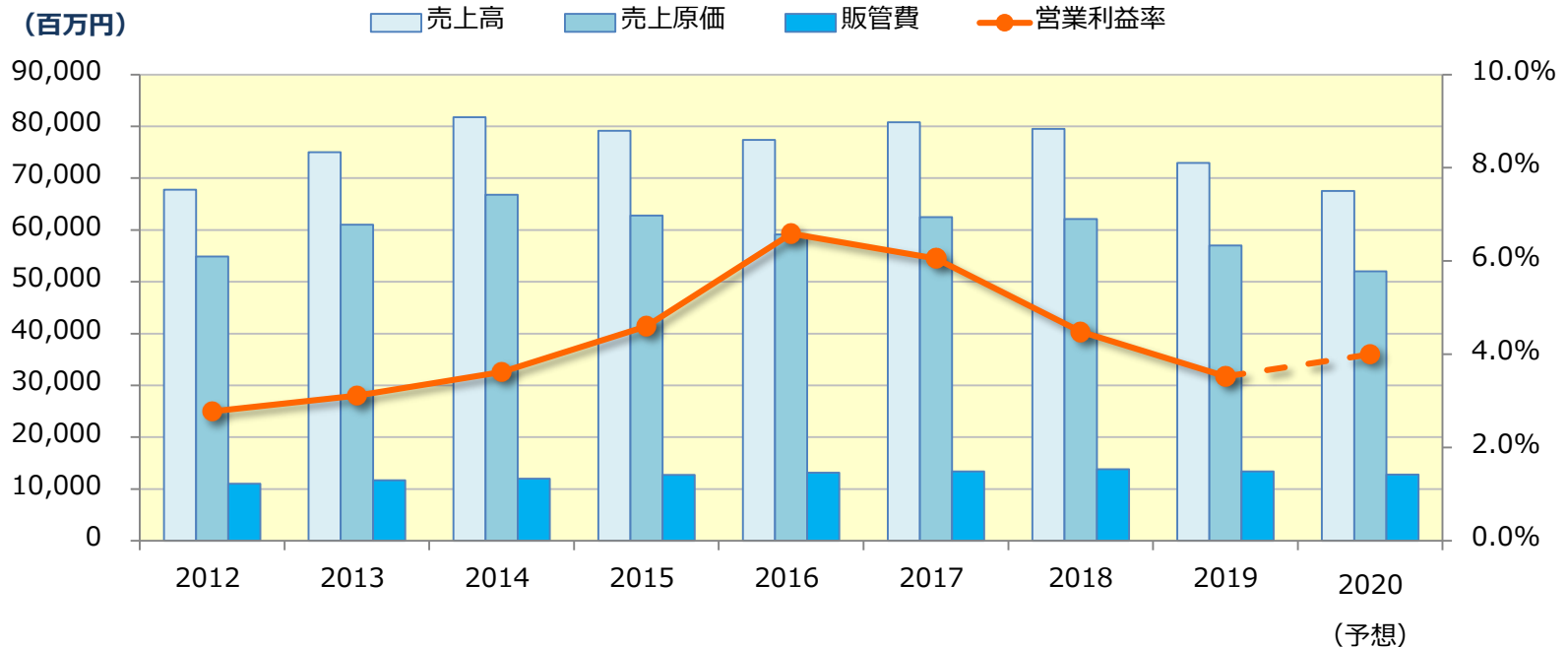
| 年度    | 2012    | 2013    | 2014    | 2015    | 2016    | 2017    | 2018    | 2019    | 2020<br>(予想) |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------------|
| 営業C F | 6,471   | 2,671   | 5,094   | 5,941   | 7,843   | 3,808   | 6,728   | 7,534   | 6,000        |
| 投資C F | △ 2,484 | △ 1,926 | △ 1,810 | △ 4,163 | △ 2,698 | △ 2,048 | △ 8,208 | △ 9,001 | △ 10,000     |
| 財務C F | △ 2,919 | △ 1,538 | △ 2,017 | △ 75    | △ 4,452 | △ 3,586 | 2,243   | 2,084   | 2,300        |
| 期末残高  | 6,901   | 6,576   | 8,136   | 9,622   | 10,118  | 8,404   | 8,970   | 9,545   | 8,000        |



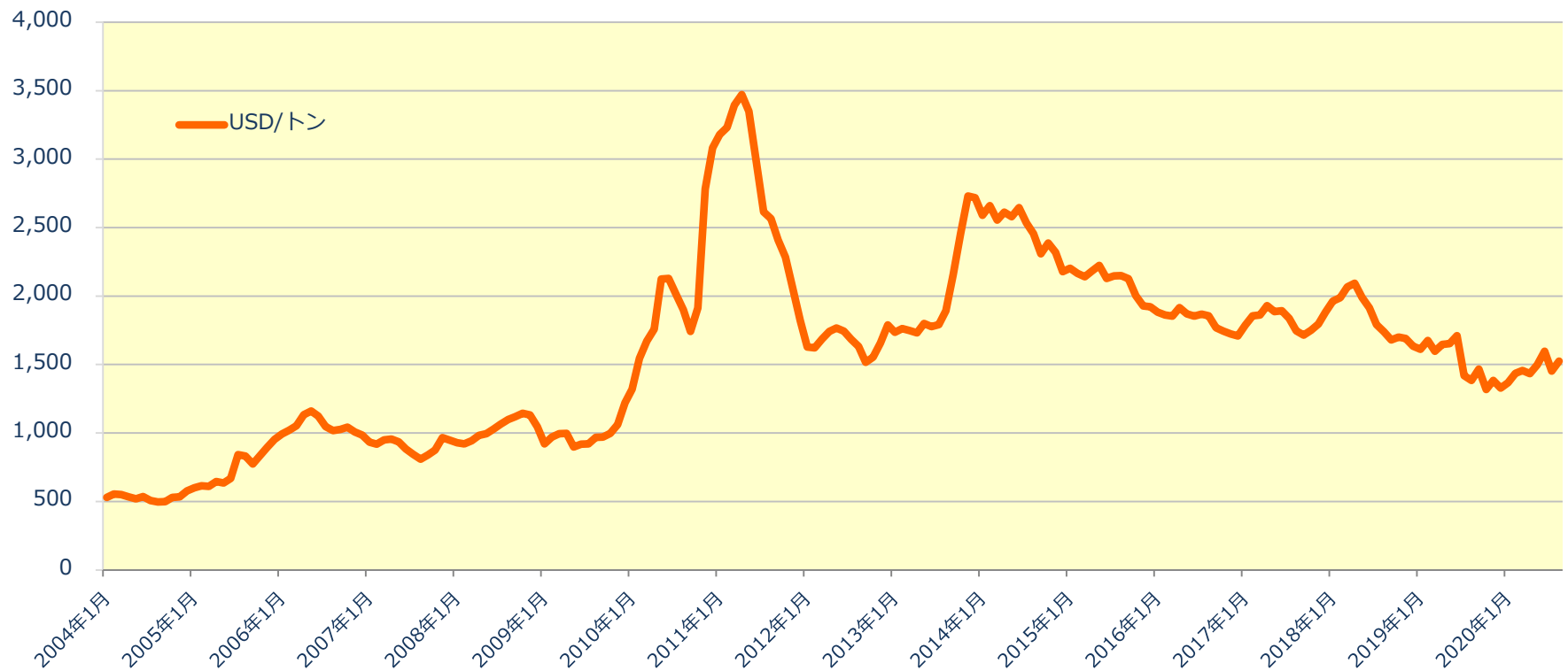
# 売上原価・販売管理費推移

(百万円)

| 年度    | 2012   | 2013   | 2014   | 2015   | 2016   | 2017   | 2018   | 2019   | 2020<br>(予想) |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------------|
| 売上高   | 67,796 | 75,025 | 81,742 | 79,119 | 77,380 | 80,782 | 79,501 | 72,967 | 67,500       |
| 売上原価  | 54,879 | 61,028 | 66,777 | 62,757 | 59,111 | 62,478 | 62,123 | 57,014 | 52,000       |
| 販管費   | 11,036 | 11,662 | 12,004 | 12,722 | 13,173 | 13,410 | 13,813 | 13,378 | 12,800       |
| 営業利益  | 1,881  | 2,335  | 2,961  | 3,639  | 5,095  | 4,892  | 3,564  | 2,574  | 2,700        |
| 営業利益率 | 2.8%   | 3.1%   | 3.6%   | 4.6%   | 6.6%   | 6.1%   | 4.5%   | 3.5%   | 4.0%         |
| 売上原価率 | 80.9%  | 81.3%  | 81.7%  | 79.3%  | 76.4%  | 77.3%  | 78.1%  | 78.1%  | 77.0%        |
| 販管費率  | 16.3%  | 15.5%  | 14.7%  | 16.1%  | 17.0%  | 16.6%  | 17.4%  | 18.4%  | 19.0%        |



# ロジン価格の推移





## 基本方針

### **SHIFT** 実現体制の構築と事業の新陳代謝の実践

#### 1. **SHIFT** 実現体制の構築

いかなる変化にも臨機応変に対応し、永続的な成長を続けるために、経営資源の適正な配置により事業の変革を推進し、現状からシフトさせる。

#### 2. 事業の新陳代謝の実践

**SHIFT** 実現体制のもと、各事業のミッションを明確にし、集中的、効率的な経営資源を投入することで事業の新陳代謝を促進する。

#### 3. 真のグローバル化とガバナンス体制強化

2020年に海外売上高450億円、海外売上高比率45%の達成とアジアNo.1事業の獲得を目指す。さらに、創業150年を迎える2026年には世界No.1事業を有する真のグローバル企業への成長を目指す。また、ガバナンス体制を強化し、経営理念共有を通じて根幹の揺らぐことのない経営を実践する。

## SHIFT実現体制の構築

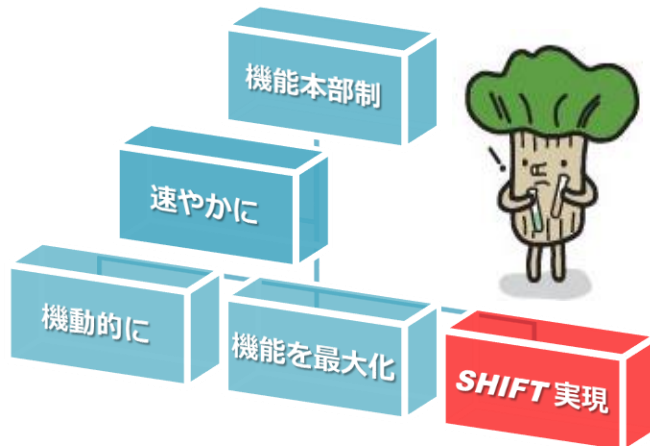
経営資源の再配置により事業を変革し、**環境の変化**や**顧客ニーズ**に対して**速やかに**、**機動的に**対応できる体制を実現する



事業本部/研究開発本部/生産本部/管理本部を新設、  
資材戦略部を加えた4本部1戦略部を中心とした**機能本部制**を導入

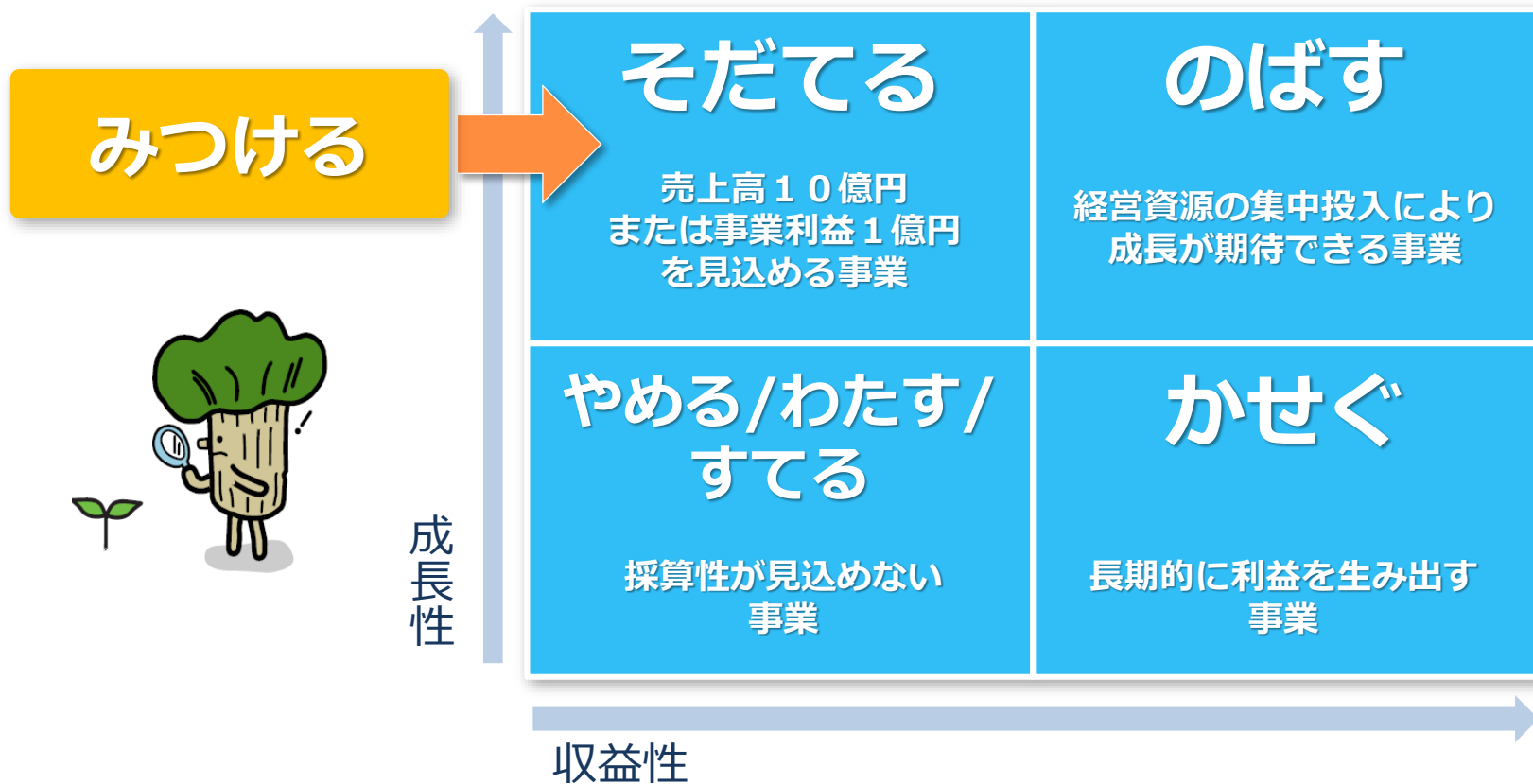


『果たすべき機能』を最大化



## 事業の新陳代謝の実践

■ 各事業をミッションに分類。戦略を明確にし、実行する。

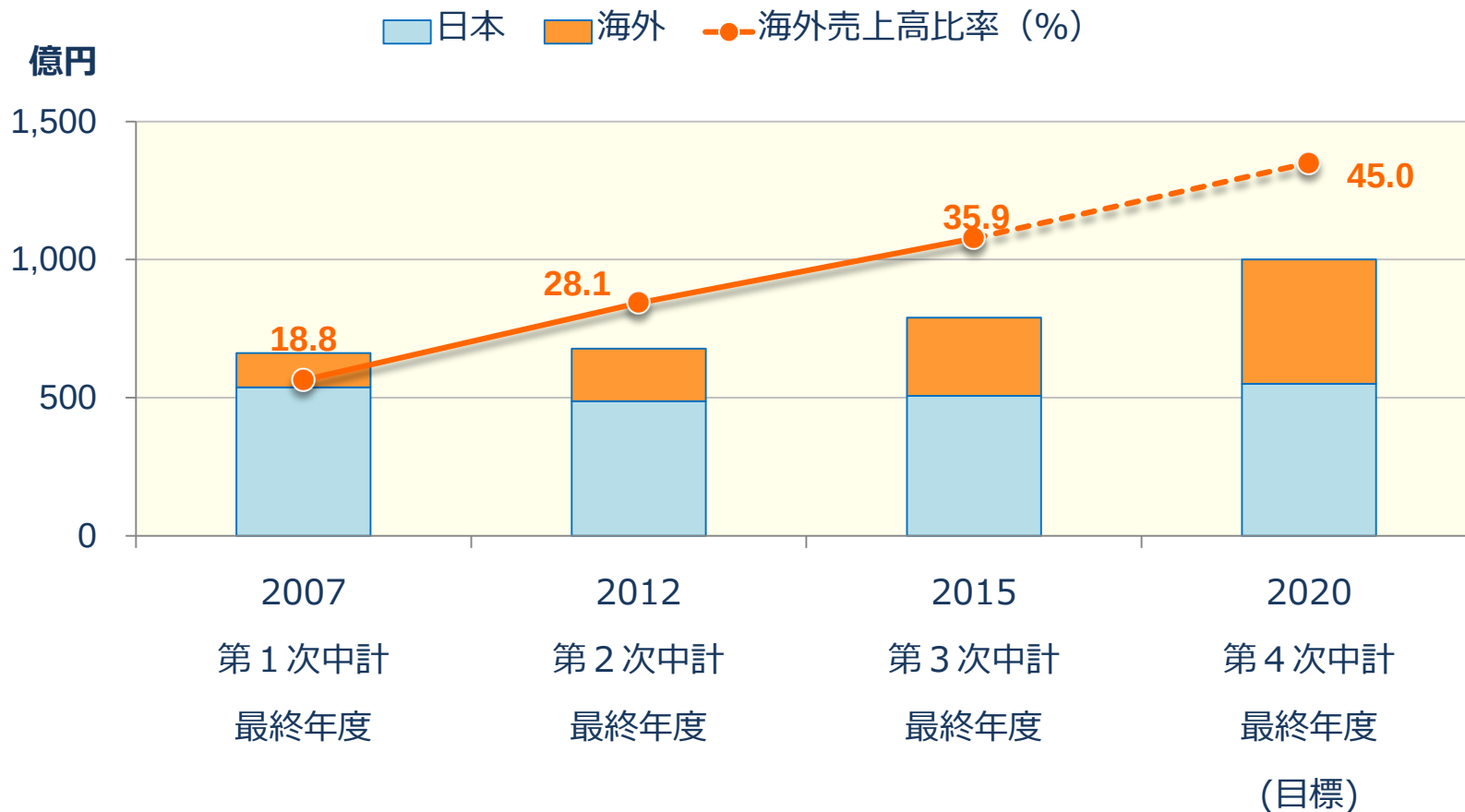


- ・ 事業戦略評価機能による事業評価と経営資源の配分で、研究資源を機動的に投入
- ・ 新規事業探索は、「みつける」ミッションとして、社長直轄の「つなぐ推進チーム」を中心に、グループ全体の探索活動を加速

# **Dramatic SHIFT 1** (第4次中計 補足資料)

## 真のグローバル化

2020年までに各分野でのアジアNo.1事業を獲得し、海外売上高450億円、海外売上高比率45%を目指す。さらに、2026年には世界No.1事業を有する真のグローバル企業を目指す。



## 連結指標

|               | 2015年度         | 第4次中計期間<br>(2016年度～2020年度) |
|---------------|----------------|----------------------------|
| 総投資金額（5年間累計）  | 約90億円<br>(3年間) | 約300億円<br>(M & A 枠50億円含む)  |
| 減価償却費         | 27億円           | 40億円（最終年度）                 |
| 研究開発投資        | 28億円           | 40億円（最終年度）                 |
| R O E         | 5.0%           | 6.5%以上（最終年度）               |
| ・収益性（当期純利益率）  | 2.9%           | 3.7%以上 収益力の向上              |
| ・効率性（総資産回転率）  | 0.9            | 1.0倍以上 資産効率の改善             |
| ・健全性（財務レバレッジ） | 1.8            | 1.7～2倍 財務健全性の維持            |

当社グループにおいては、R O E（自己資本純利益率）について売上高当期純利益率を向上させることが最も重要なファクターであると考えています。

# 富士工場の事故について

## ■発生場所・日時

場所：富士工場（静岡県富士市厚原）印刷インキ用樹脂製造棟 ※製品は【コーティング事業】に該当  
日時：2017年12月1日（金） 8時25分頃

## ■人的被害

死者2名（協力会社）、重傷者2名（協力会社）、軽傷者11名（内協力会社5名）

## ■物的被害

近隣住宅等への被害、印刷インキ用樹脂製造棟（全焼）、その他隣接製造棟一部損傷

## ■操業状況

発災製造棟を除く全ての製造設備で再開。発災現場である印刷インキ用樹脂製造棟は再建しない

## ■事故原因

今般の爆発・火災事故は静電気を着火源とする粉じん爆発およびそれに伴う火災と考えられる

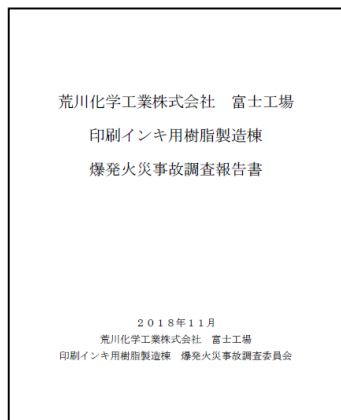
着火から爆発火災に至る過程

- 1) フレキシブルコンテナ内で着火
- 2) ダクト内を火炎が伝播
- 3) 集じん機内で一次爆発
- 4) 1階周辺への粉じんの拡散と二次爆発
- 5) 当該製造棟全体への火災

・・・※粉じん爆発により発生した火災が製造棟内の危険物、可燃物に引火、類焼

# 富士工場の事故について

事故調査委員会からの提言を重く受け止め、再発防止対策を着実に実施してまいります。  
今後、二度と悲惨な事故を起こさないよう、毎年12月1日を『安全を誓う日』と定め、  
この経験と教訓を後世へしっかりと継承してまいります。



2018年11月20日  
事故報告書リリース



12月1日を  
『安全を誓う日』に制定

## ■業績に与える影響

(百万円)

|      | 2018年<br>3月期 | 2019年<br>3月期 | 備考                                          |
|------|--------------|--------------|---------------------------------------------|
| 営業利益 | △250         | △500         | 生産・販売量の減少および代替品の調達による損失                     |
| 特別損益 | △554         | 2,100        | 補償、撤去等に係る費用、事故に起因する<br>生産設備停止に伴う固定費および保険収入等 |
| 合計額  | △804         | 1,600        |                                             |

# 株価推移





# 株式情報

|             |                                |
|-------------|--------------------------------|
| 証 券 コ ー ド   | 4968                           |
| 決 算 期       | 3月                             |
| 上 場 取 引 所   | 東証1部                           |
| 単 元 株       | 100 株                          |
| 株 価         | 1,120 円 (2020年11月30日15 : 00時点) |
| 最 低 所 要 金 額 | 112,000 円                      |
| 配 当 利 回 り   | 3.93 %                         |
| P E R       | 12.34 倍                        |
| P B R       | 0.42 倍                         |
| 発 行 済 株 数   | 20,652,400 株 (2020年3月末現在)      |
| 長期発行体格付     | A - : 安定的 ( J C R )            |